



JST Japan Science and Technology Agency Fair
フェア2018
 — 科学技術による未来の産業創造展 —

入場無料
 事前登録制

「未来の産業創造」を目指した、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）発の研究開発成果が一堂に会する JST フェアを今年も東京ビッグサイトにて開催します。将来の社会・経済に貢献する革新的基礎研究事例や産学連携成果による製品化事例などを展示するとともに、JST の事業担当者も会場内に常駐し、企業向けの各種支援事業制度等のご紹介やご相談にも応じます。

2018年
8月30日(木)・8月31日(金)
 10:00～17:30 10:00～17:00

会場
東京ビッグサイト 西3ホール
 （東京都江東区有明 3-11-1）

主催：  国立研究開発法人
科学技術振興機構
 Japan Science and Technology Agency

後援：  文部科学省

朝日信用金庫、公益社団法人 経済同友会、一般社団法人 産業競争力懇談会（COCN）、
 全国地方新聞社連合会、独立行政法人 中小企業基盤整備機構、
 東京商工会議所、一般社団法人 日本経済団体連合会、
 公益社団法人 日本技術士会、日本商工会議所（50協賛）

開催結果報告書

<CONTENTS>

• 来場者数／出展者・発表者内訳	2
• セミナースケジュール	3～6
• 出展者一覧	7～29
• 来場者調査結果	30～40
• 出展者調査結果	41～44
• 印刷物	45～59
• 記録写真	60～61

来場者数／出展者・発表者内訳

来場者数

	8月30日（木）	8月31日（金）	合計
天気	晴のち曇	曇一時雨	－
開催時間	10:00～17:30	10:00～17:00	－
総入場者数	8,437名	8,179名	16,616名

出展者・発表者内訳

ブースNo	ブース数	JST 事業別
1～5	5	戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発（ALCA）
6～7	2	未来社会創造事業
8～11	4	知財活用支援事業
12～13	2	プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム
14	1	日本科学未来館
15～16	2	理数学習推進部（ジュニアドクター育成塾、グローバルサイエンスキャンパス、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援、国際科学技術コンテスト支援）
17、18～23	7	戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）
17、24～27	5	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）
28	1	経営企画部 持続可能な社会推進室
29～37	9	出資型新事業創出支援プログラム（SUCCESS）
38～50	13	大学発新産業創出プログラム（START） 社会還元加速プログラム（SCORE）
51	1	バイオサイエンスデータベースセンター（NBDC）
52	1	科学技術情報連携・流通促進事業 JSTの情報サービス
53	1	研究人材キャリア情報活用支援事業 JREC-IN Portal
54	1	低炭素社会戦略センター（LCS）
55～60	6	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発（RISTEX）
61～65	5	イノベーションハブ構築支援事業
66～73	8	研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ステージⅠ/戦略的イノベーション創出推進プログラム（S-イノベ）
74～109	35	戦略的創造研究推進事業（CREST/さきがけ/ACCEL/ACT-I）
110～116	7	研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）
117～124	8	研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）企業主導フェーズ/産学共同実用化開発事業（NexTEP）
149～150	2	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）革新的燃焼技術
151～155	5	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）革新的構造材料
156	1	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）エネルギーキャリア
157～159	3	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）インフラ維持管理・更新・マネジメント技術
160～163	4	内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）レジリエントな防災・減災機能の強化
164～167	4	戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究（ERATO）
168～175	8	産学共創プラットフォーム 共同研究推進プログラム（OPERA）
176～204	29	中国総合研究・さくらサイエンスセンター（CRCC）
205～223	19	センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム
A～K	11	国立研究開発法人等展示
合計	210	

セミナースケジュール

1日目：8月30日（木） 西1ホール（1階）セミナー会場

10:00～10:45	JST事業セミナー①
10:00～10:10	「目利き人材育成プログラム」のご紹介 産学連携展開部 産学連携プロモーショングループ
10:10～10:25	「プログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム」のご紹介 イノベーション人材育成室
10:25～10:45	博士人材の求人活用！JREC-IN Portal 米陀 正英（知識基盤情報部 人材情報グループ）
11:15～12:25	バイオ・ナノ材料分野の基礎研究から次のイノベーションを考える（ERATO成果紹介） 戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究（ERATO） ERATOは、卓越した研究者のリーダーシップによって新しい科学技術の潮流を創ることを目指すJSTの研究推進事業の1つです。近年では世界で初めてカーボンナノベルト合成に成功するなど、学術的に重要な貢献を続けています。また、Xenoma社やKarydo Therapeutics社といった気鋭のベンチャー企業も輩出しています。 本セミナーでは、ERATOの研究推進体制をご説明するとともに、現在進行中のERATOプロジェクトの中から、微生物の集団としてのふるまいの理解と制御、次世代機能材料に繋がるサブナノ粒子群の創製、次世代の有機光デバイスの基盤となる分子設計に関する研究成果をご紹介します。 次のイノベーションを考える一助として、ERATOの先端的な基礎研究に触れてみませんか？
11:15	ERATO事業紹介 JST 研究プロジェクト推進部
11:25	『多様な微生物が形成する集団の制御技術の創出』 野村 暢彦（筑波大学 生命環境系 教授）
11:45	『原子数を精密に制御したサブナノ粒子の合成と触媒反応への応用』 植松 宏彰（東京工業大学 科学技術創成研究院 ハイブリッドマテリアル研究ユニットプロジェクトマネージャー）
12:05	『分子エキシトンが切り拓く次世代光エレクトロニクス』 安達 千波矢（九州大学 最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長）

セミナースケジュール

1日目：8月30日（木） 西3ホール（4階）セミナー会場

10:30～11:45	JST事業セミナー②
10:30	NBDCが提供する生命科学データベースサービスのご紹介 バイオサイエンスデータベースセンタ
11:00～11:45	研究・開発・経営戦略立案にも役立つサービスに変わります！「JSTの情報サービス」のご紹介 情報企画部
11:00	ビジネスのヒントが見つかる！J-GLOBAL～この秋一新～ 情報企画部 知識インフラグループ
11:20	ビジネスの意思決定をサポート！～JDreamⅢ分析サービスのご紹介～ 今井 康好（（株）ジー・サーチ）
11:40	高精度日中・中日機械翻訳と中国文献データベース 情報企画部 システム高度化グループ
12:15～14:00	持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた共創 JST 経営企画部、国際部、「科学と社会」推進部 持続可能な開発目標（SDGs）の達成は、大きなビジネスチャンスであり、科学技術の新しい発展機会であり、外交の選択肢をつくる重要な機会でもあります。今、科学技術振興機構がSDGsの達成に向けて幅広いステークホルダーとともに取り組みはじめたチャレンジングな試みや、産業界で始まっているユニークな取り組みについてご紹介します。こうした取り組みをさらに活性化していくためにどのような協力ができそうか、登壇者の皆様と意見交換を行います。
12:15	趣旨説明 荒川 敦史（JST「科学と社会」推進部）
12:25	STI for SDGsにおける国内外の政策動向 倉持 隆雄（JST 研究開発戦略センター センター長代理）
12:33	三陸がつなぐ牡蠣養殖で豊かな海を創る 小島 昭（JST・地域結集型研究開発プログラム代表研究者／前橋総合技術ビジネス専門学校 校長）
12:41	北アフリカにおける研究成果の社会実装 磯田 博子（JST・SATREPS研究者／筑波大学地中海・北アフリカ研究センター長/生命環境系 教授）
12:49	SDGsをSTI×ビジネスで達成する 小原 愛（Japan Innovation Network ディレクター）
12:57	つなぐことから生み出すSDGs達成へのアクション 田瀬 和夫（SDG/パートナーズ 代表取締役CEO）
13:05	ディスカッション
13:50	まとめ

セミナースケジュール

1日目：8月30日（木） 西3ホール（4階）セミナー会場

14:30～16:30	異分野の融合・横断が拓く新たな科学技術イノベーション JST 経営企画部、国際部、「科学と社会」推進部 JST 研究開発戦略センター（CRDS） 本セミナーでは、JST研究開発戦略センター（CRDS）が、新しい科学技術イノベーションを拓く異分野の融合・横断テーマをいくつかピックアップし、我が国が推進すべき研究開発戦略と、海外との比較を紹介します。また、特に欧州において、異分野の融合・横断を促進する政策や取り組みを紹介します。
14:30	『次代に必要なR&D-Insight』
14:40	『欧州における注目の科学技術政策動向 ～社会的課題へのアプローチと分野の横断～』 CRDS 海外動向ユニット
15:05	『複雑社会における人間の意思決定の支援 ～人工知能技術と人文・社会科学の融合～』 CRDS システム・情報科学ユニット
15:25	『未来のものづくりを変革するバイオ生産プロセスの創出』 CRDS ライフサイエンス・臨床医学ユニット
15:45	『生体との相互作用を制御するバイオアダプティブ材料の創出』 CRDS ナノテクノロジー・材料ユニット
16:05	『ものづくりの未来を担う革新的デジタルツイン ～未踏複合現象モデリングとその先進開発・設計・製造基盤技術確立～』 CRDS 環境・エネルギーユニット
16:25	全体質疑応答

2日目：8月31日（金） 西3ホール（4階）セミナー会場

11:00～12:30	基調講演『新製品開発に生かす伝統技術』 東京理科大学 教授 生越 由美 氏 伝統技術は先端技術が内在された「超ロングライフ技術」であり、科学技術の分野にも温故知新は存在する。伝統技術を生かした新製品開発で広がる可能性について、マサチューセッツ工科大学のクスマノ教授と東京理科大学が日本で初めて創ったグローバル時代のMOT2.0＝ハイテクMBA（経営学研究科学技術経営専攻）で教鞭を取り、数々の知財の転用と再生を目的に生かしてきた生越由美氏に、伝統技術の因数分解と新製品への適用の方法についてご講演いただきます。
13:00～14:00	低炭素社会実現に向けたALCAの技術開発紹介 JST戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発(ALCA) 先端的低炭素化技術開発（ALCA）は、環境・エネルギー分野の技術開発に特化した研究プログラムとして2010年に発足しました。2015年のパリ協定採択など、地球温暖化対策に向けて世界的な気運が高まっている中、ALCAでは2030年の社会実装を目指して研究開発を進めています。今回はALCA実施課題の中から省電力光学技術、高効率・省エネルギーな化学プロセス、革新的な蓄電デバイスおよび省エネルギーに可能にする断熱技術など、5つの成果をご紹介します。
13:00	空間結像アイリス面型・超低消費電力ディスプレイ 東北大学大学院工学研究科 川上 徹
13:12	アミン含有ゲルから成る高効率CO ₂ 分離材・分離膜の開発 九州大学大学院工学研究院 星野 友
13:24	随伴水処理のための新しい分離膜、吸着材の開発 物質・材料研究機構 機能性材料研究拠点 一ノ瀬 泉
13:36	水素と電力の相互高効率変換：可逆作動固体酸化物セル 山梨大学 燃料電池ナノ材料研究センター 西野 華子
13:48	有機無機ハイブリッドエアロゲルの微細構造制御と応用展開 京都大学大学院理学研究科 中西 和樹

セミナースケジュール

2日目：8月31日（金） 西3ホール（4階）セミナー会場

14:30～16:30	Society 5.0の実現に向けた革新的センサー・デバイス技術 JST戦略的創造研究推進事業（CREST/さきがけ/ACCEL/ACT-I） デジタルデータを自由に操る超スマート社会（Society 5.0）の実現をめざし、CREST/さきがけ/ACCELなどの戦略的創造研究推進事業では、革新的な基盤技術の創出、実用化をめざした応用基礎研究を推進しています。本セミナーでは、生体や環境からデータを生み出すセンシング技術、センサーやIoTデバイスを駆動するエネルギーハーベスティング技術など、最新の研究成果を紹介します。
14:30	皮膚を対象としたコンフォーマルセンシング技術の進展 JST ACCEL染谷プロジェクト プログラムマネージャー 松葉 頼重
14:50	ダイヤモンド電極を用いた医療用・環境計測用高感度センサー 慶應義塾大学理工学部 教授 栄長 泰明
15:10	ダイヤモンド固体量子センサーの可能性 東京工業大学工学院 教授 波多野睦子
15:30	糖鎖修飾グラフェントランジスターを用いた高感度ウイルス検出 大阪大学産業科学研究所 特任教授 松本 和彦
15:50	神経伝達物質の活動を見るダイナミックイオンビジュオロジー 豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明
16:10	有機材料による電気二重層エレクトレットを利用した振動発電素子 電力中央研究所材料科学研究所 上席研究員 小野 新平

1日目：8月30日（木） 西3ホール（4階）COIプレゼンテーションシアター

11:00～15:00	COIアクセラレータチーム企画 COIシーズピッチ/シーズ事業化のためのミニセミナー 各大学によるピッチプレゼンと事業化にあたり想定される課題とその解決方法等のセミナーを予定しております。また、セミナー後にはプレゼンシアター内で相談会などを行いますので是非ご参加ください。
-------------	---

2日目：8月31日（金） 西3ホール（4階）COIプレゼンテーションシアター

12:30～16:10	COI若手連携研究ファンド
-------------	---------------

12:30～16:10	COI若手連携研究ファンド	14:10	休憩
12:30	脳点発事業化の加速を目指したCOIアクセラレータの手法開発およびその実証研究	14:30	からだにやさしいライフスタイル選択サポートの創造 —生物時計同調と快適睡眠で高める女子学生のQOL—
12:40	健康寿命の延伸を目指したマイオカインの機能解明と そのサプリメント化の実証に向けた基礎研究	14:40	肌の保湿とハリを取り戻す美容液とその効果を実感できるセンサシステム
12:50	スポーツ×テクノロジーによるアスリートの事故防止と全力発揮支援	14:50	皮膚組織液による皮膚がん診断・薬物投与パッチの開発
13:00	腸内フローラ判定トイレと改善サプリの開発	15:00	膵臓がんのような多発性・びまん性の表層がんを超低侵襲的に治療する 極微小光学的システムの創製
13:10	ORNI-PCR法を利用した細菌菌の同種・低コスト解析法の開発	15:10	低侵襲脳卒中治療を目指した、患者と医療者に優しい バイオエンジニアリング技術に関する基礎研究
13:20	マイクログラフによるウェアラブルマルチセンシングシステムの開発	15:20	睡ぐして眠る：良質な睡眠獲得のための刺激技術の実証 —中医学的刺激法の導入に関する検討—
13:30	装着感と拘束感のないセンサ（Stress Free Sensing）で取得する 生体ビッグデータによる新しい医療デバイス開発への挑戦	15:30	地域・職域でのロコモティブシンドロームの早期発見、予防・改善を目指した 生活機能低下予防システムの構築
13:40	ウェアラブルテラヘルツセンサの開発	15:40	認知症の予防と早期発見のためのビッグデータ多層解析
13:50	社会実装を目標としたバイタルデータアート化システムの実現	15:50	低出生体重児の客観的評価を目指した生理学的指標の解明と 社会性獲得過程の評価方法確立に向けた基礎研究
14:00	大型3DプリンティングによるCFRPペレットを用いた 革新的建築型モジュールの設計方法に関する研究	16:00	FDG PET検査データのビッグデータ解析による画像自動診断システムの開発をめざした研究

出展者一覧 1/23

戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発(ALCA)

事業紹介				
新たな科学的・技術的知見に基づく温室効果ガス削減に大きな可能性を持つ技術の創出 ALCA(Advanced Low Carbon Technology Research and Development Program)では、温室効果ガスの削減を中長期にわたって継続的かつ着実に進めていくため、新たな科学的・技術的知見に基づいて温室効果ガス削減に大きな可能性を有する技術を開発するための研究開発を推進し、グリーンイノベーションの創出につながる研究開発成果を得ることを目指します。 ●お問い合わせ先 未来創造研究開発推進部 低炭素研究推進グループ				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	未来創造研究開発推進部 低炭素研究推進グループ	—	
1	空間結像アイリス面型・超低消費電力ディスプレイ	東北大学大学院 工学研究科 学術研究員 川上 徹	ムネカタ（株） 製造グループ 仕上開発セクション セクションリーダー 手塚 武彦	
2	アミン含有ゲルから成る高効率CO2分離材・分離膜	九州大学大学院 工学研究院 准教授 星野 友	—	
3	油田・ガス田における可燃性ガス回収技術の開発	物質・材料研究機構 機能性材料研究拠点 副拠点長 一ノ瀬 泉	—	
4	水素と電力の相互高効率変換： 可逆作動固体酸化物セル	山梨大学 クリーンエネルギー研究センター 教授 内田 裕之	—	
5	高強度エプロゲルの開発と高性能断熱材への応用	京都大学大学院 理学研究科 准教授 中西 和樹	ティエムファクトリ(株) 代表取締役社長 山地 正洋	

未来社会創造事業

事業紹介				
未来社会創造事業は新しいアイデアやチャレンジングな研究提案をお待ちしております。 本事業では、社会・産業ニーズを踏まえ、経済・社会的にインパクトのあるターゲット（出口）を明確に見据えた技術的にチャレンジングな目標を設定し、戦略的創造研究推進事業や科学研究費助成事業等の有望な成果の活用を通して、実用化が可能かどうか見極められる段階（概念実証：POC）を目指した研究開発を実施します。その研究開発において、斬新なアイデアの取り込み、事業化へのジャンプアップ等を柔軟かつ迅速に実施可能とするような研究開発運営を採用します。 ●お問い合わせ先 未来創造研究開発推進部				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
6	事業紹介展示	未来創造研究開発推進部	—	
7	未来社会創造事業 探索加速型「世界一の安全・安心社会」の実現領域	未来創造研究開発推進部	—	

出展者一覧 2/23

知財活用支援事業

事業紹介

JSTイチョシの特許技術を展示します

知財活用支援事業では、大学等の研究成果の権利化支援、人的サポート、パッケージ化、企業へのライセンス、産学マッチング機会の提供及び技術移転人材の育成等を実施しています。会期中は、JST保有特許の中からイチョシの技術をご紹介します。

●お問い合わせ先 知的財産マネジメント推進部 知財集約・活用グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
8	流れの「かたち」を言葉にする手法の開発	京都大学 大学院理学研究科 数学・数理解析専攻 教授 坂上 貴之	京都教育大学 教育学部 数学教室 准教授 横山 知郎	
9	細胞を使わない次世代ゲノム合成法	立教大学 理学部 生命理学科 准教授 末次 正幸	—	
10	白金表面上部分無電解金メッキによる3nmナノギャップ電極	東京工業大学 科学技術創成研究院 フロンティア材料研究所 教授 真島 豊	関東化学（株） 技術・開発本部 中央研究所・第四研究室 主任研究員・室長 高橋 秀樹	
11	大ストローク・低消費電力・狭ピッチ「触覚ディスプレイ」	東北大学 大学院医工学研究科 芳賀・松永・鶴岡研究室 特任准教授 松永 忠雄	—	

プログラム・マネージャー（PM）の育成・活躍推進プログラム

事業紹介

新たなイノベーションを生み出すプログラム・マネージャーを育成します

国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるためには、企業、大学、公的研究機関の連携によるオープンイノベーションのより一層の推進とともに、これを主導的にマネジメントするプログラム・マネージャーの重要性が高まっています。本プログラムでは、実践的な講義・演習やマネジメントの実践等を通じて、プログラム・マネージャーとして必要な能力を育成していきます。

●お問い合わせ先 イノベーション人材育成室

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
12	質問を創る学び場ハテナソンの研究開発と実装試験	京都産業大学 総合生命科学部 佐藤 賢一	京都産業大学、NPO法人ハテナソン共創ラボなど	
13	次世代タンパク食：昆虫利用及び細胞培養による食料生産へ	理化学研究所 インテグリアルチャー社	理化学研究所 インテグリアルチャー社	

日本科学未来館

事業紹介

日本科学未来館は、先端の科学技術と人をつなぐサイエンスミュージアムです

日本科学未来館は、いま世界に起きていることを科学の視点から理解し、私たちがこれからどんな未来をつくっていくかをともに考え、語り合う場です。研究者・技術者と連携した取り組みとして、展示制作時の研究者による監修やデータ協力のほか、「研究者との対話イベント」や先端研究に市民が参加できる「実証実験イベント」などを行っています。これらの活動を通じ、科学技術と社会とのコミュニケーションを活性化させ、共創活動を推進しています。その事例をいくつかご紹介します。

●お問い合わせ先 日本科学未来館

出展者一覧 3/23

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
14	事業紹介展示	日本科学未来館	—	

理数学習推進部（ジュニアドクター育成塾、グローバルサイエンスキャンパス、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援、国際科学技術コンテスト支援）

事業紹介

次代の科学技術イノベーションを担う優れた素質を持つ児童生徒を発掘し、その才能を育てます

①ジュニアドクター育成塾

高い意欲や突出した能力を有する小中学生を発掘し、理数・情報分野を中心に大学等が提供する特別な教育プログラムを通じて体系的に能力を伸ばす人材育成プログラムで、年間を通して実施されます。

②グローバルサイエンスキャンパス

卓越した意欲・能力を有する高校生等が、研究活動や国際的な活動を含む高度で体系的な理数教育プログラムを大学において受講するプログラムです。個に応じた才能育成に向けた取組や、受講生の多様性に応じた育成プランが組み込まれており、年間を通して実施されます。

③スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校は文部科学省が指定する先進的な理数教育に取り組む高等学校等で、全国で204校（平成30年度現在）が指定されています。理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発・実施、課題研究の推進、高大連携・接続、国際性の育成を重視し、創造性豊かな将来国際的に活躍する科学技術人材を育成しています。

④国際科学技術コンテスト支援

数学・化学・生物学・物理・情報・地学・地理の7つの教科別国際科学オリンピックと、インテル国際学生科学技術フェア（Intel ISEF）への代表生徒の派遣支援を通して、次世代の科学技術の担い手を育成しています。

●お問い合わせ先 理数学習推進部

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
15,16	事業紹介展示	理数学習推進部	—	

国際部（国際交流、SATREPS、SICORP、海外事務所、等）

事業紹介

国境を越えた国際協働研究や交流、科学技術外交の推進・実現

国際部では100%グローバルの牽引役として、国境を越えた国際協働研究や交流、科学技術外交の推進・実現に取り組んでいます。所属する4つのグループが担うそれぞれのミッションは全てが100%グローバルのためにあります。企画調整・国際戦略Gは海外の情報収集や方向性など、アンテナとナビゲーターの役目を担い、事業実施グループはその名のとおり戦略的国際共同研究や国際緊急共同研究・調査支援を行っています。SATREPS グループも同様に地球規模課題対応国際科学技術協力プログラムを実施し、管理グループは海外との人材交流基盤の構築を図る目的として外国人研究者宿舎の管理・運営などを行っています。また、海外の事務所はJSTの前線基地として「未来を共創する研究開発戦略の立案・提言」と知の創造と経済・社会的価値への転換を目指すべく「国際協働研究・国際交流・科学技術外交の推進」の役目を担っています。

●お問い合わせ先 国際部 企画調整・国際戦略グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
17	事業紹介展示	国際部	—	

出展者一覧 4/23

戦略的国際共同研究プログラム（SICORP）

事業紹介

政府間合意に基づいて設定された協力相手国・地域及び研究分野において、イコールパートナーシップによる国際共同研究を支援しています。

SICORPでは、わが国の科学技術・イノベーション力の更なる向上のため、省庁間合意に基づいて設定された協力相手国・地域および研究分野において、イコールパートナーシップに基づく共同研究を実施しています。JSTは研究主幹（PO）のリーダーシップの下で、相手国ファンディング機関と連携しながら優れた国際共同研究の課題を支援しています。JSTと相手国ファンディング機関による共同公募・審査を経て採択された研究課題のチームに対して、日本側・相手国側から研究支援が実施されます。

●お問い合わせ先 国際部 事業実施グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
17	事業紹介展示	国際部 事業実施グループ	—	
18	イスラエル 災害時交通の観測・予測・制御—非定常ネットワークでの経路選択行動	東京大学 大学院工学系研究科 社会基盤学専攻 教授 羽藤 英二	—	
19	ウイジェラード4カ国（V4）先進ナノ酸化物の創製と構造・電気化学特性の関係解明による次世代蓄電デバイスの開発	静岡大学 電子工学研究所 ナノマテリアル研究部門・ナノマテリアルインテグレーション分野 教授 鈴木 久男	—	
20～22	EIG CONCERT-Japan（日・欧州）プログラム：食料及びバイオマスの生産技術	新潟大学、東京農工大学、名古屋大学、理化学研究所	—	
23	e-ASIA共同研究プログラム：ドローンによる災害情報の収集と活用	防災科学技術研究所 主幹研究員 井上 公	—	

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)

事業紹介

開発途上国との国際共同研究を通じて地球規模課題の解決とSDGsの達成を目指します

SATREPSは開発途上国のニーズをもとに、地球規模課題の解決や科学技術水準の向上につながる新たな知見・技術の獲得と社会実装を目指す国際共同研究プログラムです。SDGsの達成に向け、国際協力機構（JICA）と連携して支援を行います。

●お問い合わせ先 国際部 SATREPSグループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
17	事業紹介展示	国際部 SATREPSグループ	—	
24	災害リスクの評価と万全な備えで、災害対応力を強化せよ！	東京大学 生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター センター長/教授 目黒 公郎	—	
25	養蚕革命！東アフリカで高品質シルクを開発	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 新産業開拓研究領域 新素材開発ユニット ユニット長 亀田 恒徳	—	
26	人と生物多様性とバームオイル産業の共生を目指す！	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 白井 義人	九州大学 大学院農学研究院 教授 酒井 謙二	
27	アマゾンの生物多様性を守れ！～フィールドミュージアム構想～	京都大学 野生動物研究センター 教授 幸島 司郎	—	

出展者一覧 5/23

経営企画部 持続可能な社会推進室

事業紹介				
STI for SDGs大解説！ STI for SDGs・・・科学技術イノベーションが持続可能な開発目標の達成にどのように貢献できるのか。政府やJSTにおける取組みについて、紹介します。 ●お問い合わせ先 持続可能な社会推進室				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
28	事業紹介展示	持続可能な社会推進室	—	

出資型新事業創出支援プログラム(SUCCESS)

事業紹介				
直接出資によるJST事業発のベンチャー企業支援 JSTの研究開発成果を活かして起業されたベンチャー企業は400社を超えています（平成29年3月末現在）。 これからの日本を支える新たな産業の創成や雇用の創出、経済の活性化のためには、ベンチャー企業が果たす役割は極めて重要であり、その成長のためには一層の支援が必要です。 JSTの研究開発成果の実用化を目指すベンチャー企業に対して、出資や人的・技術的援助を通じてその創出・成長を支援するのが本事業です。 「JSTの研究開発成果を元に日本を発展させたい」という志ある皆様を、JST産学連携事業で培われた経験やネットワークを最大限活用し、ビジネスプラン作りから支援いたします。 ●お問い合わせ先 起業支援室				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
36,37	事業紹介展示	企業支援室	—	
29	変位分布計測装置 4D Sensor for Material Test	4Dセンサー(株)	和歌山大学	
30	名古屋大学で長年培った「電子ビーム技術」を産業利用へ	(株)Photo electron Soul	—	
31	家族の医療情報はスマホアプリMeDaCaでデジタル管理	メディカルデータカード(株)	慶應義塾大学 医学部 システム医学講座 准教授 洪 繁	
32	採血不要の血中脂質計測器	メディカルフォトニクス(株)	—	
33	バイオ3Dプリンティング技術による新産業創出への挑戦	(株)サイフーズ	—	
34	蛍光ガイド手術のための蛍光ナビゲーションドラッグ	五稜化薬(株)	—	
35	糖鎖科学のスタンダードを提供いたします！	医化学創薬(株)	北海道大学 先端生命科学研究院 先端融合科学研究部門 新薬探索研究分野 教授 西村 紳一郎	

出展者一覧 6/23

大学発新産業創出プログラム (START) 社会還元加速プログラム (SCORE)

事業紹介

「来たれ、ベンチャー志望の研究者！」～技術シーズを民間ノウハウで起業化支援

START事業は、「社会還元加速プログラム (SCORE)」と「大学発新産業創出プログラム (START)」の2プログラムを展開しています。

・「SCORE」では、大学等の優れた技術シーズを、MVP※による顧客評価のフィードバックにより、ビジネスモデルとして現実化させることを目的とし、起業やSTARTプログラムへ展開していくことを目指しています。

・「START」では、大学等のポテンシャルの高い技術シーズから、成長性の高いベンチャーを起業する目的で、事業化ノウハウを持った人材（事業プロモーター）と公的資金とを組み合わせ、プロジェクト期間中に事業戦略・知財戦略を構築しながら、事業の大きな成長性を見据えた起業を目指します。両プログラムの取り組みにより、大学等の研究成果の社会還元を実現し、持続的な仕組みとしての日本型イノベーションモデルの構築を目指して取り組んでいます。

※MVP：Minimum Viable Productsの略称。事業仮説検証を目的とした最小限の機能に絞込んだ試作物。

●お問い合わせ先 産学連携展開部 START事業グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な 開発目標
38	事業紹介展示	産学連携展開部 START事業グループ	—	
39	超小型磁性薄膜電力センサー「SIRCデバイス」の多用途展開	(株) SIRC (サーク) 代表取締役社長 平澤 大	—	
40	カニ殻由来の新素材「キチンナファイバー」のヘルスケア効果	(株) マリナノファイバー 代表取締役 伊福 伸介	—	
41	技術を変える配線材料 “Cu”	(株) マテリアル・コンセプト 代表取締役社長 小池 美穂	—	
42	わたしたちは、素材・化学分野に特化した、新しいベンチャーキャピタルです	ユニバーサル マテリアルズ インキュベーター (株) 取締役パートナー 木場 祥介	—	
43	グローバルベンチャーの創出—研究成果の実践を志す研究者と共に	(株) FFGベンチャービジネスパートナーズ 取締役副社長 山口 泰久	—	
44	竹マイクロファイバー/プラスチック・コンボジット	合同会社テイクプラス 代表社員 三浦 重信	—	
45	特異的スプライシングバリエーションを標的とした新規治療法の開発	ペリオセラピア (株) 代表取締役 谷山 義明	—	
46	次世代型核酸医薬の創製：マイクロRNAの化学修飾と創薬への展開	(株) e-NA Biotech (イーエヌエイ バイオテック) 代表取締役 北出 幸夫	—	
47	難治性炎症性腸疾患に対する新薬開発	ひむかAMファーマ (株) 代表取締役 新城 裕司	—	
48	ボールSAWセンサを用いたガス計測ソリューション	ボールウェーブ (株) 代表取締役社長 赤尾 慎吾	—	
49	狭い場所でのがん治療できる医療器	(株) OKファイバーテクノロジー 代表取締役 岡 潔	—	
50	印刷型バイタルセンサシート	(株) フューチャーインク 取締役副社長 熊木 大介	—	

出展者一覧 7/23

バイオサイエンスデータベースセンター（NBDC）

事業紹介

生命科学データベースの統合を実現するための研究開発とサービスの提供

バイオサイエンスデータベースセンター（NBDC）は、研究データを中心とした生命科学分野の研究成果が広く研究者、開発者、技術者において共有、活用され、研究開発が活性化されることを目指し、わが国の生命科学データベースの統合を実現するための研究開発とサービスを行っています。
NBDCポータルサイトでは、目的のデータベースを一覧から探すことができる「カタログ」、様々なデータベースを一括で検索することができる「横断検索」、データベースを丸ごとダウンロードできる「アーカイブ」のほか、様々な生命科学分野のデータベースやツールを利用できます。また、大量に産出されるようになったヒトに関する研究データを活用していただくため、倫理面に配慮した、「NBDCヒトデータベース」を運用しています。

●お問い合わせ先 知的財産マネジメント推進部 知財集約・活用グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
51	事業紹介展示	バイオサイエンスデータベースセンター	—	

科学技術情報連携・流通促進事業 JSTの情報サービス

事業紹介

JSTの情報サービスは、研究・開発・経営戦略立案にも役立つサービスに変わります！！

Googleなどの検索エンジンでは検索できない、国内外の科学技術文献に特化した検索サービス「JDream」は、今年新たに可視化機能などを搭載、研究・開発・経営戦略立案などに役立つ高度な情報分析が可能となり、文献の内容を伝えるデータベースから、一歩進んだ文献情報分析システムへと変わりました。さらに、秋以降も新規機能をリリースする予定です。そして、文献情報と、特許、研究者など様々な情報を「つないで」新しい発見を導く「J-GLOBAL」も、この秋一新。コンテンツがさらに充実し、皆様の様々な業務に役立ちます！ その他、国内の学協会電子ジャーナル「J-STAGE」、研究者総覧データベース「researchmap」、人工知能の技術を用いた高精度の「日中・中日機械翻訳」、科学技術の現状把握と予測のための新たな手法を開発・提供する「J-GLOBAL foresight」の「MappingScience」プロジェクトにも取り組んでいます。

●お問い合わせ先 知的財産マネジメント推進部 知財集約・活用グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
52	事業紹介展示	知識基盤情報部サービス支援センター	—	

研究人材キャリア情報活用支援事業 JREC-IN Portal

事業紹介

博士人材の求人活用！研究人材・高度知識人材の求人求職、情報収集支援

JREC-IN Portalは、研究者・研究支援者・技術者等の研究人材のキャリア形成・能力開発を情報面から支援する研究人材のためのポータルサイトです。国内外の研究者から圧倒的支持のあるJREC-IN Portalだから、一般的な転職サイトとはひと味もふた味も違う専門人材に、ピンポイントでアプローチが可能です。博士号を持つ研究者・専門家、スキルを磨いた研究支援スタッフ、企業で長年経験を積んだ技術者等が多数登録しています。研究職専門だから、研究分野や研究テーマで検索可能。理工系に限らず、人文社会科学や医歯薬学、芸術など、すべての研究分野をカバーしています。求人情報は毎日更新されるほか、新着求人情報を毎日メール配信するマッチングメール機能、求める人材へ直接メールを送れる求職者照会メール機能など充実の機能を、無料でご利用いただけます。

●お問い合わせ先 知識基盤情報部サービス支援センター JREC-IN Portal担当

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
53	事業紹介展示	知識基盤情報部サービス支援センター	—	

出展者一覧 8/23

低炭素社会戦略センター(LCS)

事業紹介				
「明るく豊かな低炭素社会」実現のための社会シナリオ・戦略の提案 パリ協定の発効等を受け、わが国の経済・社会の持続的発展を伴う科学技術を基盤とした「明るく豊かな低炭素社会」の実現に貢献するため、望ましい社会の姿を描き、その実現に至る道筋を示す社会シナリオ研究を推進し、社会シナリオ・戦略を提案しています。 ●お問い合わせ先 低炭素社会戦略センター（LCS）				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
54	事業紹介展示	低炭素社会戦略センター（LCS）	—	

戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発（RISTEX）

事業紹介				
社会との協働が生む、社会のための知の実践 社会技術研究開発センター（RISTEX）は、社会の具体的な問題の解決を通して、新しい社会的・公共的価値および経済的価値を創り出すことを目指しています。社会技術の研究開発を推進するにあたり、研究者と社会の問題解決に取り組む「関与者」（ステークホルダー）が協働するためのネットワーク構築を支援し、自然科学だけでなく人文・社会科学の知識を活用した研究開発に取り組んでいます。 ●お問い合わせ先 社会技術研究開発センター（RISTEX）				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
55	事業紹介展示	社会技術研究開発センター（RISTEX）	—	
56	外部から見えにくい空間での危害を予防し、安全な暮らしをつくる	京都府立大学 / 福井大学	—	
57	日本で広がるリビングラボ	東京大学 高齢社会総合研究機構	—	
58	多様なリビングラボ事例	筑波大学 みんなの使いやすさラボ / （一社）高齢社会共創センター	—	
59	歩行補助車を活用した歩いて暮らしたくなるまちづくり	富山大学 大学院医学薬学研究部 地域看護学講座 准教授 中林 美奈子	富山大学 芸術文化学部 准教授 河原 雅典、 富山大学 副学長 鳥海 清司、富山大学 工学部 技術職員 木下 功士、三協立山（株）三協マテリアル 社製品技術課 川崎 弘士、日本マイクロソフト（株） 技術統括室 プリンシパルアドバイザー 大島 友子	
60	高齢者の営農を支える「らくらく農法」の開発	奈良女子大学 研究院人文科学系 教授 寺岡 伸悟	三晃精機（株） 代表取締役社長 笹岡 元信	

出展者一覧 9/23

イノベーション構築支援事業

事業紹介

市場のニーズと最先端の研究や技術・人材を結集する「イノベーション」構築を支援

本事業では、国立研究開発法人の機能強化を支援し、グローバルな競争環境の中で優位性を発揮できるよう、また我が国の研究力・人材力強化の中核的な拠点として必要な役割を果たすことができるよう、各国立研究開発法人の使命・役割に応じた国際的な拠点化や国内外の関係機関との連携、すなわち「イノベーション」の構築を進めています。
国立研究開発法人の運営費交付金等による独自資金と、研究開発成果の最大化（飛躍）に向けて支援する科学技術振興機構（JST）の資金をマッチングさせ、国立研究開発法人がイノベーションを駆動させる基盤＝イノベーションを築くのに必要な改革を推進します。

●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部 COIグループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
61	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部 COIグループ	—	
62	情報統合型物質・材料開発イニシアティブ(MI2I)	物質・材料研究機構（NIMS） 情報統合型物質・材料研究拠点 拠点長 伊藤 聡	—	
63	太陽系フロンティア開拓による人類の生存圏・活動領域拡大に向けたオープンイノベーション	宇宙航空研究開発機構（JAXA） 宇宙探査イノベーションハブ ハブ長 久保田 孝	—	
64	「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーション	防災科学技術研究所（NIED） 気象災害軽減イノベーションセンター センター長 島村 誠	—	
65	高精度の予測に基づく予防医療の実現に向けた疾患ビッグデータ主導型イノベーション	理化学研究所（RIKEN） 医科学イノベーション推進プログラム プログラムディレクター 小安 重夫	—	

研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）ステージ I / 戦略的イノベーション創出推進プログラム（S-イノベ）

事業紹介

テーマを設定して「産」と「学」による研究開発を推進しています

研究テーマを設定して研究開発を推進しています。A-STEPステージ I「産業ニーズ対応タイプ」では、産業界に共有する技術的課題を解決するための大学等による基盤研究を、また戦略的イノベーション創出推進プログラム（S-イノベ）では、産業創出の礎となる技術の確立に向けて、産学共同の研究開発を支援しています。会期中は成果物（製品化されたものを含む）を展示し説明員も常駐しておりますので、ぜひお気軽にブースへお立ち寄りください。

●お問い合わせ先 産学連携展開部 テーマ型研究グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
66	デジタル中性子カメラ & 中性子 3D スキャナー	東京大学 大学院工学系研究科 原子力国際専攻 バイオエンジニアリング専攻 教授 高橋 浩之	産業技術総合研究所 研究員 藤原 健	
67	産業用小型中性子照射システムの開発	東京工業大学 科学技術創成研究院 先端原子力研究所 教授 林崎 規託	—	
68	フォトニクスポリマーを用いた次世代光インターコネクトシステム	宇都宮大学 大学院工学系研究科 先端光工学専攻 教授 杉原 興浩	慶應義塾大学、九州大学、早稲田大学、 (株) 豊田中央研究所、(株) デンソー、アダマンド 並木精密宝石 (株)、日産化学 (株)、 三菱鉛筆 (株)、本多通信工業 (株)	
69	生体活動情報を磁場で捉える高感度磁気センシング装置	東北大学 大学院工学系研究科 教授 安藤 康夫	コニカミルタ(株)	
70	有機半導体フレキシブルディスプレイ —プリンタブルエレクトロニクス—	パイクリスタル (株)	理化学研究所 創発物性科学研究センター チーム リーダー 瀧宮 和男 産業技術総合研究所、東京大学	

出展者一覧 10/23

ブースNo	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
71	街中のガラスをサイネージメディアに 透明スクリーンガラス	セントラル硝子（株）	東京工業大学 物質理工学院 応用化学系 准教授 戸木 雅利、JXTGエネルギー、ビジョン開発（株）	
72	あらゆる透明体をスクリーンに！ 透明スクリーンフィルム	ビジョン開発（株）	東京工業大学 物質理工学院 応用化学系 准教授 戸木 雅利、JXTGエネルギー、セントラル硝子（株）	
73	量子ナノフォトニック情報通信技術の開発	（株）石原産業	電気通信大学 フォトニックイノベーション研究センター センター長 白田 耕蔵、NSマテリアルズ（株）、アリオス（株）	

戦略的創造研究推進事業 （CREST/さがけ/ACCEL/ACT-I）

事業紹介				
世界をリードする、イノベーション志向のトップサイエンス 戦略的創造研究推進事業は、我が国が直面する重要な課題の達成に向けた基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションにつながる、革新的技術シーズの創出を目的としています。ライフ・ナノテク・グリーン・ICT、多様な分野で世界をリードするトップサイエンスを推進するとともに、その社会実装への橋渡しに貢献しています。 ●お問い合わせ先 戦略研究推進部				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
74	光で創造する意思決定の世界：人工知能の基盤を担う次世代フォトニクス	情報通信研究機構 総括研究員 成瀬 誠	埼玉大学大学院理工学研究科 教授 内田 淳史、山梨大学大学院総合研究部 教授 堀 裕和	
75	ベイズ計測の数理基盤の構築	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 複雑理工学専攻 教授 岡田 真人	東京大学地震研究所 准教授 長尾 大道 統計数理研究所モデリング研究系 准教授 日野 英逸	
76	最先端ベイズ統計学に基づく地震計測ビッグデータ解析	東京大学 地震研究所 教授 平田 直	東京大学 大学院情報理工学系研究科 数理情報学専攻 教授 駒木 文保	
77	無制限多重染色を可能とする革新的超解像顕微鏡IRIS	京都大学 大学院生命科学系研究科 分子動態生理学分野 教授 渡邊 直樹	—	
78, 79	非標識で計測可能な生体内イオンのダイナミックビジュオロジー	豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 集積化バイオセンサ・MEMSグループ 教授 澤田 和明	—	
80	新型インフルエンザ早期発見のためのグラフエンバイオセンサー	大阪大学 産業科学研究所 特任教授 松本 和彦	大阪大学産業科学研究所 准教授 井上 恒一、助教 小野 亮生、助教 金井 康、（株）村田製作所 先端技術研究開発部 シニアマネージャー 木村 雅彦、牛場 翔太、中部大学工学部 教授 河原 敏男、鈴木 康夫、香川大学総合生命科学研究センター 准教授 中北 慎一、京都府立医科大学医学研究科 講師 渡邊 洋平	
81	植物生産性の向上を可能にする新規制御ケミカルの開発	東京大学 大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 教授 浅見 忠男	理化学研究所 環境資源科学研究センター 機能開発研究グループ 専任研究員 中野 雄司	
82	組織微小環境中の1細胞構成情報の解析	金沢大学 大学院医薬保健学総合研究科 特任教授 橋本 真一	札幌医科大学 医学部 病理学第一講座 教授 鳥越 俊彦、東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカル情報生命専攻 教授 鈴木 穂、国立遺伝学研究所 遺伝情報分析研究室 准教授 池尾 一穂、（株）日立製作所 研究開発グループ基礎研究センター東大ラボ 主任研究員 久野 範人	
83	ハロゲン化ペロブスカイト太陽電池の界面構造と高効率化	九州工業大学 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻 教授 早瀬 修二	電気通信大学 教授 沈 青、教授 豊田 太郎、宮崎大学 教授 吉野 賢二、立命館大学 教授 峯元 高志	
84	メタンを高付加価値化学原料に転換する触媒技術創出	鳥取大学 大学院工学研究科 応用化学分野 教授 片田 直伸	東京大学大学院工学系研究科 准教授 脇原徹、工学院大学先進工学部 教授 奥村 和	

出展者一覧 11/23

ブースNo	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
85	可視光を使って室温でメタンを活性化化する反応プロセス	北九州市立大学 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 准教授 天野 史章	—	
86	固体電解質を利用したアンモニア電解合成システム	成蹊大学 理工学部 物質生命理工学科 教授 里川 重夫	東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授 大友 順一郎、福岡大学工学部化学システム工学科 教授 久保田 純、東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻 准教授 菊地 隆司	
87	エネルギーキャリアとしてのアンモニア合成・分解プロセスの開発	大分大学 理工学部 共創理工学科 准教授 永岡 勝俊	—	
88	バナジウム合金膜を組み込んだ大流量水素精製デバイス	物質・材料研究機構 エネルギー・環境材料研究拠点 水素製造材料グループ 副拠点長・グループリーダー 西村 睦	名古屋大学大学院工学研究科材料デザイン工学専攻 助教 湯川 宏、大分工業高等専門学校機械工学科 教授 松本 佳久、鈴鹿工業高等専門学校材料工学科 教授 南部 智恵、太陽鉱工（株）赤穂研究所 所長 古永 英雄	
89	ギ酸からの高压水素発生	産業技術総合研究所 創エネルギー研究部門 エネルギー触媒技術グループ 上級主任研究員 姫田 雄一郎	産業技術総合研究所 化学プロセス研究部門 マイクロ化学グループ 上級主任研究員 川波 肇	
90～95	微小エネルギーを利用した環境発電技術（微小エネブース）	CREST・さがけ「微小エネルギー」領域	—	
90	有機材料による電気二重層エレクトレットを利用した振動発電素子	電力中央研究所 材料科学研究所 上席研究員 小野 新平	（株）鷺宮製作所 主査 三屋 裕幸	—
91	ラットリングとローンベアの活用で効率を高めた熱電発電材料	産業技術総合研究所 省エネルギー研究部門 熱電変換グループ 主任研究員 李 哲虎	—	—
92	磁性により高機能化させた鉱物による熱電発電材料	物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 熱エネルギー変換材料グループ MANA主任研究者 森 孝雄	物質・材料研究機構 国際ナノアーキテクトニクス研究拠点 熱エネルギー変換材料グループ 主幹研究員 辻井 直人	—
93	大気下安定なカーボンナノチューブによるウェアラブル用熱電変換シート	九州大学 大学院工学研究院 応用化学部門 教授 藤ヶ谷 剛彦	—	—
94	熱電技術の普及促進に向けた低コスト熱電材料および伸縮型熱電デバイス	東京大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 教授 塩見 淳一郎	早稲田大学 理工学術院 機械科学専攻 准教授 岩瀬 英治	—
96	植物の根に共生する菌根菌：ゲノム解読から農業利用へ	自然科学研究機構 基礎生物学研究所 共生システム研究部門 教授 川口 正代司	大阪府立大学 大学院生命科学研究所 教授 秋山 康紀、信州大学 学術研究農学系 准教授 齋藤 勝晴、北海道大学 大学院農学研究院 准教授 江澤 辰広、東北大学 大学院生命科学研究所 准教授 佐藤 修正、かずさDNA研究所 技術開発研究部 グループ長 平川 英樹、龍谷大学 農学部 植物生命科学科 講師 永野 惇、農業・食品産業技術総合研究機構・北海道農業研究センター 上級研究員 大友 量、同・東北農業研究センター 主任研究員 出口 新、同・中央農業研究センター グループ長 吉田 重信、同・中央農業研究センター 上級研究員 唐澤 敏彦、同・西日本農業研究センター 主任研究員 福永 亜矢子、同・九州沖縄農業研究センター グループ長 安達 克樹、山形大学 農学部 教授 依谷 圭太郎、東北大学 大学院農学研究科 准教授 伊藤 豊彰、秋田県立大学 生物資源科学部 准教授 佐藤 孝、北海道立総合研究機構 根創農業試験場 研究主任 八木 哲生	
97	発声者の協力的動作を活用した音声生成機能の拡張技術	名古屋大学 情報基盤センター 教授 戸田 智基	—	
98	指の触覚をリアルに伝える小型触覚伝送モジュールと3触覚グローブ	日本メトロン（株） マーケティング室 マーケティング部 主事補 吉原 秀和	東京大学 高齢社会総合研究機構 名誉教授 舘 暁、慶應義塾大学 大学院メディアデザイン研究科 准教授 南澤 孝太、東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授 彼田 裕之、電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授 梶本 裕之、奈良女子大学 研究院生活環境科学系 講師 佐藤 克成、アルプス電気株式会社	
99	ぶれない、まぶしくない、自撮りできる高速ビジョン応用小型眼底カメラ	奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科 教授 太田 淳	東京大学 大学院情報理工学系研究科 創造情報学専攻 教授 石川 正俊	

出展者一覧 12/23

ブースNo	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
100	高輝度・高出力フォトニック結晶レーザ	京都大学 大学院工学研究科 電子工学専攻 教授 野田 進	浜松ホトニクス（株）中央研究所 主任部員 渡邊 明佳、ローム（株）基礎研究開発部 技術員 國師 渡、三菱電機（株）先端技術総合研究所 専任 久場 一樹	
101	元素間融合技術を用いた革新的ナノ合金	京都大学 大学院理学研究科 化学専攻 教授 北川 宏	（株）フルヤ金属 ケミカル研究開発部 研究開発グループ 課長 平井 香成	
102	皮膚呼吸が可能な皮膚貼り付け型ナノメッシュ電極	東京大学 大学院工学系研究科 電気系工学専攻 教授 染谷 隆夫	—	
103	三次元的に動く布 ～着衣型アシストを目指して～	名古屋大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 助教 舟洞 佑記	—	
104	ダイヤモンド中のN Vセンターを用いた高感度磁気センサー	東京工業大学 工学院 電気電子系 教授 波多野 睦子	産業技術総合研究所先進パワーエレクトロニクス研究センターダイヤモンドデバイスチーム 研究チーム長 牧野 俊晴、京都大学化学研究所 教授 水落憲和、大阪大学蛋白質研究所 教授 原田慶恵、ルネサスエレクトロニクス（株）オートモティブソリューション事業本部／共通技術開発第一統括部／技術ソリューション企画部 シニアプリンシパルスベシヤリスト 安田 晋	
105	ダイヤモンド電極 ～医療用・環境計測用高感度センサーへの応用～	慶應義塾大学 理工学部 化学科 教授 宋長 泰明	（株）堀場アドバンスドテクノ 開発本部 要素開発部 New Technologyチーム チームリーダー 宮村 和宏、機能水研究振興財団 理事長 堀田 国元	
106	IoT/AI社会を支える省エネCMOS技術：縦型BC-MOSFET	東北大学 国際集積エレクトロニクス研究開発センターセンター長（教授） 遠藤 哲郎	—	
107	金星表面でも使える不揮発性メモリ	産業技術総合研究所 ナノエレクトロニクス研究部門 エマージングデバイスグループ 主任研究員 内藤 泰久	千葉工業大学 工学部 機械電子創成工学科 准教授 菅 洋志	
108	電流を流さないスピン波ロジック素子	豊橋技術科学大学 大学院工学研究科 電気・電子情報工学系 助教 後藤 太一	—	
109	世界最速カメラの開発と未踏領域の開拓	東京大学 大学院工学研究科 バイオエンジニアリング専攻 講師 中川 桂一	—	

出展者一覧 13/23

研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)

事業紹介

シーズ候補の可能性検証から実用化開発まで

A-STEPは、大学・公的研究機関等で生まれた技術シーズを実用化し社会への還元を目指す技術移転支援プログラムです。大学等の研究成果（シーズ候補）の可能性を検証して顕在化させる研究開発の初期フェーズから、顕在化したシーズの実用性を検証する中期フェーズ、さらには製品化に向けた実証試験を行うための企業化開発を実施する後期フェーズまで、それぞれの研究開発フェーズの特性に応じた複数の支援タイプを実施しています。

●お問い合わせ先 産学連携展開部 研究支援グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
116	事業紹介展示	産学連携展開部 研究支援グループ	—	
110	調理できる粉末魚油でDHAをもっと身近に	青葉化成（株）	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 宮澤 陽夫	
111	エレクトロスプレー繊維加工技術	アピックヤマダ（株）	（株）ヤマダ 齋栄繊維物（株） 産業技術総合研究所 環境管理研究部門反応場 設計研究グループ 脇坂 昭弘 愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 主任研究員 新谷 智吉（課題実施当時） 愛媛県産業技術研究所 繊維産業技術センター 研究員 井上 寛之（現担当）	
112	パルス光伝導法による半導体Siの超高感度不純物分析 手法の開発	グローバルウェーブ・ジャパン（株）	熊本大学 パルスパワー科学研究所 極限物性科学 部門 半導体極限機能科学分野 教授 久保田 弘	
113	高硬度・防汚性、ナノインプリント用エポキシ樹脂組成物	オーテックス（株）	東京理科大学 基礎工学部 電子応用工学科 教授 谷口 淳	
114	超高速光リンクのための超高速面発光レーザーの開発	富士ゼロックス（株）	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業 技術研究所 フォトニクス集積システム研究コア 教授 小山 二三夫	
115	木造住宅の制震構造標準化を可能にした 「制震筋かい金物」	（株）DIT	ユニオンゴム工業（株） B X カネシン（株） 第一工業大学 工学部建築デザイン学科 教授 古田 智基（課題実施当時） 横浜国立大学 都市イノベーション研究院 建築学 教室 特別研究教員 中尾 方人	

出展者一覧 14/23

研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）企業主導フェーズ/ 産学共同実用化開発事業（NexTEP）

事業紹介				
「目指せ、事業化！」～JSTはイノベーションに挑戦する貴社を応援します～ 研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)の企業主導フェーズ、及び、産学共同実用化開発事業(NexTEP)は、大学等の研究成果をコア技術とする、開発型企業が主体となる実用化開発を支援する事業です。最大50億円までの返済型で支援するタイプ(開発不成功のリスクの一部をJSTが負担)と、最大3億円までのマッチングファンド型で支援するタイプがあります。 合言葉は「目指せ、事業化！」 ●お問い合わせ先 産学共同開発部 事業推進グループ				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
120	事業紹介展示	産学共同開発部 事業推進グループ	—	
117	樹木精油を利用した環境汚染物質の無害化剤	日本かおり研究所（株）	森林研究・整備機構 大平 辰郎	
118	小型・軽量可搬型 X 線検査装置	つくばテクノロジー（株）	産業技術総合研究所 分析計測標準研究部門 X 線・陽電子計測研究グループ 首席研究員 鈴木 良一	
119	熱電シナジー排ガス発電システム	（株）アツミテック	産業技術総合研究所 無機機能材料研究部門 副部門長 藤代 芳伸	
121	高生産性精密研磨/パッド	帝人フロンティア(株)	立命館大学 理工学部機械工学科 アプリケーション研究室 教授 谷 泰弘	
122	植物由来機能性素材の製造技術	日立造船（株）	九州大学 医学部 生体予防医学研究所 教授 馬場 健史	
123	人工核酸BNAの活用による癌遺伝子変異の高感度検出技術	(株)BNA	大阪大学 大学院 薬学研究科 生物有機化学分野 教授 小比賀 聡	
124	人工脂質膜を用いた品質管理用高耐久性高速味覚センサ	（株）インテリジェントセンサーテクノロジー	九州大学 高等研究院 特別主幹教授 都甲 潔	

研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP) 機能検証フェーズ

事業紹介				
大学・公的研究機関等発技術シーズの実用化を目指し、産学共同で取り組むプロジェクトを支援します。 大学や公的研究機関等の技術シーズが、企業ニーズの解決に資するかどうかを確認するための試験研究や実証研究を支援する、公募型の研究開発費支援です。JSTマッチングプランナーが、応募前からプロジェクト実施期間に至るまでサポートします。 2017年度に公募を行った「地域産学バリュープログラム」は、「A-STEP機能検証フェーズ 試験研究タイプ」としてリニューアルしました。また、新たに「実証研究タイプ」を加え、産学連携の芽出しを支援します。 ●お問い合わせ先 産学連携展開部 地域イノベーショングループ				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
142	事業紹介展示	産学連携展開部 地域イノベーショングループ	—	
125	ヘルメット搭載型骨伝導ヘッドセットシステムにおける高感度バイタルセンサの開発	岩手大学 理工学部 システム創成工学科 電気電子通信コース 教授 本間 尚樹	(株) フォルテ 代表取締役 葛西 純	
126	有機無機ELの長寿命化に貢献する室温原子層堆積・ガスバリア	山形大学 大学院理工学研究科 電気電子工学専攻 教授 廣瀬 文彦	—	

出展者一覧 15/23

ブースNo	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
127	センチメートル級測位可能な携帯型キネマティックGPS受信機の開発	東北大学 未来科学技術共同研究センター 准教授 宮本 直人	青葉テクノロジー合同会社 代表社員 森本 達郎	
128	新規作出荷を用いた結城紬の試作開発	茨城県産業技術イノベーションセンター繊維高分子研究所 紬技術部門 主任研究員 本庄 恵美、中野 睦子、篠塚 雅子	—	
129	IoTへの展開をめざすマルチモーダル触覚センサの開発	中部大学 工学部 ロボット理工学科 サイバネティクス研究室 教授 大日方 五郎、助教 イ ジェリョン	(株)バイナス 技術部 取締役技術部長 戸祭 和彦 愛知工科大学 工学部 電子制御・ロボット工学科 准教授 裴 艶玲 (株)太田廣 企画開発部 部長 加藤 信彦 (株)伊藤美藝社製版所 企画開発部 部長 横桑俊仁 東朋テクノロジー(株) エレクトロニクス 事業開発センター 副センター長 塚本 宗太郎 ピー・エル・オートテック(株) 技術部 部長 山本 祥弘 (有)名南機械製作所 代表取締役社長 小林 幸雄	
130	紫レーザー励起蛍光分析による穀物の一粒分析・分別装置の開発	信州大学 学術研究院(農学系) 先端生命科学分野 教授 井上 直人	(有)八剣技研 社長 清水 尚哉 (株) インダストリーネットワーク CSO 伊藤 要	
131	コルス歯車を適用した遊星歯車減速機の開発	広島県立総合技術研究所 東部工業技術センター 加工技術研究部 主任研究員 佐々木 秀和	—	
132	コンピュータホログラフィによる驚きの3D映像	関西大学 システム理工学部 電気電子情報工学科 教授 松島 恭治	—	
133	超親水・超撥水性材料の定量的濡れ性評価	理化学研究所 生命機能科学研究センター 集積バイオ デバイス研究ユニット 研究員 田中 信行	(株) 北川鉄工所 開発本部 新事業企画室 係長 春園 嘉英	
134	おんぶ動作特性に基づく快適な移乗機器の開発	石川県工業試験場 繊維生活部デザイン開発室 研究主幹 餘久保 優子	金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 リハビリテー ション科学領域・作業療法学講座 教授 柴田 克之 カナヤマシナリー株式会社 会社設計・開発(特許担当) 課長 稲葉 聡 富士リビング工業株式会社 製品開発室 室長 松本 博一	
135	インフラサウンド津波センサーの高度化および防災システムへの応用展開に関する研究	高知工科大学 総合研究所 インフラサウンド研究室 教授 山本 真行	(株) サヤ 代表取締役 横田 昭寛 京都産業大学 コンピュータ理工学部 准教授、瀬川 典久 (株) 数理設計研究所 代表取締役 矢澤 正人 オサン・テクノス(株) 技師長 戸梶 博司	
136	全雄トラフグ生産・成熟制御技術開発による早期白子生産	宇都宮大学 農学部 応用生命化学科生物有機化学 研究室 教授 飯郷 雅之	(株) 小川水産 代表取締役 小川 明秀	
137	多点センサー観測に基づくリアルタイム広域斜面監視型の防災情報システム開発	防災科学技術研究所 先端的研究施設活用センター 戦略推進室 室長 酒井 直樹	熊本高等専門学校 建築社会デザイン工学科 教授 入江 博樹 ACS株式会社、株式会社リミス	
138	海域の環境収容力に基づく持続的な牡蠣養殖法の構築	熊本県立大学 環境共生学部 研究主任 小森田 智大	水俣市漁業協同組合	
139	東北・熊本復興支援のとりくみ	科学技術振興機構	—	
140	晶析プロセスの効率化：回分式を連続式に転換する振動流バッチ反応器	神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 助教 堀江 孝史	(株) 旭製作所 経営企画推進室新規事業開発Gr グループリーダー 渡部 芳英	
141	熊本の伝統食「馬肉」に新たな価値を与える飼育方法とその付加価値の証明	熊本県産業技術センター 食品加工技術室 研究主任 佐藤 崇雄	(株) 千興ファーム (株) 菅乃屋	
143	キクラゲ栽培による発酵バガス・黒糖焼酎粕の島内循環システム	鹿児島工業高等専門学校 都市環境デザイン工学科 教授 山内 正仁	(株) 奄美大島開運酒造 商品研究開発センター センター長 杉 元直	
144	ジャンボタンをやつつけろ!! 工学的手法による防除法の開発	佐世保工業高等専門学校 電気電子工学科 准教授 柳生 義人	—	

出展者一覧 16/23

産学連携プロモーショングループ

事業紹介				
「産」「学」に携わる人材が集まる場を企画、新しい出会いを応援します！ 「産」と学との出会いの場を提供することをもとに、産学連携に携わる人が交流する場＝展示会、説明会、個別相談会、研修会、ポータルサイト、月刊誌（オンラインジャーナル）、パンフレット、WEB、メルマガ配信というように、多種多様なアプローチにより「日本全体の産学連携活動の活性化」に資するための場作りをプロデュースしています。 ●お問い合わせ先 産学連携プロモーショングループ				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
145	事業紹介展示 目利き人材育成プログラム	産学連携プロモーショングループ	—	
146	事業紹介展示 産学官の道しるべ	産学連携プロモーショングループ	—	
147	事業紹介展示 産学官連携ジャーナル	産学連携プロモーショングループ	—	
148	事業紹介展示 新技術説明会	産学連携プロモーショングループ	—	

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）

事業紹介				
CSTI主導で、燃焼技術、構造材料、水素社会、インフラ維持管理、防災の未来を拓く 「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」は、内閣府総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の主導的マネジメントにより、科学技術イノベーションを実現するために創設した国家プロジェクトです。全11課題、府省・分野を超えた横断型のプログラムであり、課題ごとにPD（プログラムディレクター）を選定し、基礎研究から出口（実用化・事業化）までを見据え、規制・制度改革や特区制度の活用等も視野に入れて推進していきます。国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、「革新的燃焼技術」「革新的構造材料」「エネルギーキャリア」「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」「レジリエントな防災・減災機能の強化」の5つの課題を担当しています。 ●お問い合わせ先 「科学と社会」推進部				

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 革新的燃焼技術

事業紹介				
最大熱効率50%を実現する革新的技術の研究開発と持続的な産学連携体制構築を目指します SIP革新的燃焼技術では、乗用車用エンジンの熱効率50%を実現するための研究開発を行っています。熱効率向上のためには、エンジン内部の複雑な燃焼現象の解明や、摩擦等で生じる損失を低減させる技術の開発が必要です。本展示では、本事業で開発中の3次元燃焼解析ソフトウェア「HINOCA」及びポリマーモリス材料を用いた潤滑システムをご紹介します。 ●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部 SIP第1グループ				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部 SIP第1グループ	—	
149	3次元燃焼解析ソフトウェア「HINOCA」	SIP革新的燃焼技術（JAXA、早稲田大学、海上・港湾・航空技術研究所、大阪大学、広島大学、東北大学、大分大学、北海道大学）	—	
150	ポリマーモリスを用いた潤滑システム	京都大学 化学研究所 教授 辻井 敬巨	—	

出展者一覧 17/23

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） 革新的構造材料

事業紹介

強く、軽く、高温に耐える革新的構造材料の研究開発が日本の航空機産業の未来を拓く

SIPは、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）が司令塔機能を発揮し、科学技術イノベーションを実現するものとして創設されました。設定された課題の一つ、「革新的構造材料」は、強く、軽く、熱に耐える革新的材料を開発し、航空機を始めとする輸送およびエネルギー産業での実機適用、エネルギー転換・利用効率向上を目指しています。さらに材料技術を基盤に、裾野産業も含めた我が国の航空機産業を育成、拡大していきます。

●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部SIP第1グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部SIP第1グループ	—	
151	【航空機用CFRP】脱オートクレーブ材料・成形技術開発	東レ（株） 複合材料研究所 所長 吉岡 健一	—	
152	航空エンジン用金属粉末射出成形技術（MIM）の開発	(株)IHI 航空・宇宙・防衛事業領域 技術開発センター エンジン技術部 部長 黒木 博史	九州大学 鉄鋼リサーチセンター・特任教授 三浦 秀士 大阪チタニウムテクノロジーズ 高機能材料部 部長 有本 伸弘	
153	ダブル電子ビーム蒸着法による耐環境性コーティング形成	ファインセラミックスセンター 材料技術研究所 主幹研究員 北岡 諭	(株) IHI	
154	高速基材製造プロセス技術の開発	東京工科大学 片柳研究所 所長 香川 豊	三菱重工航空エンジン(株)、民間エンジン事業推進部・技術マネジメントグループ、グループ長、福島 明 イビデン(株)、技術開発本部、常務執行役員・技術開発本部長、久保 修一	
155	マテリアルズインテグレーションシステムの開発	東京大学 工学系研究科 副学長・教授 小関 敏彦	—	

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） エネルギーキャリア

事業紹介

水素エネルギーキャリアとしてのアンモニアへの期待と挑戦

SIPエネルギーキャリアでは、水素エネルギーを活用し低炭素社会を早期に実現することを目指し、CO2フリー水素の製造・貯蔵・利用に関する技術開発を行っています。その中で、アンモニアは、水素密度が高く、インフラ技術が確立されていることに加え、直接燃料として利用できるため、水素エネルギーキャリアとして有望であることがわかってきました。5年間でめざましく発展したアンモニアの直接利用技術とバリューチェーン構築への挑戦をご紹介します。アンモニア燃料の社会受容性調査にも是非ご協力ください。

●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部	—	
156	水素エネルギーキャリアとしてのアンモニアへの期待と挑戦	SIPエネルギーキャリア（アンモニア直接燃焼チーム、アンモニア燃料電池チーム、CO2フリー水素利用アンモニア製造・貯蔵・輸送関連技術の開発チーム）	—	

出展者一覧 18/23

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） インフラ維持管理・更新・マネジメント技術

事業紹介

インフラの安全・安心をテクノロジーで実現する

道路・鉄道・港湾・空港など、私たちの生活を支える社会インフラの多くは、高度成長経済期に建設されており、その高齢化に伴い、重大事故の発生可能性や、維持修繕費の増大が社会的課題となっています。SIPインフラでは、世界最先端技術の活用により、事故を未然に防ぎ、予防保全によるインフラのライフサイクルコストの最小化の実現を目指します。本展示では、インフラ維持管理に関する最新技術について実物を交え紹介するとともに、SIPインフラ開発技術の社会実装に向けた支援策や実証試験事例について説明させていただきます。

●お問い合わせ先 インノベーション拠点推進部

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部	—	
157	レーザーを用いたトンネルの状態計測の近況	理化学研究所 光子工学研究センター センター長 緑川 克美	量子科学技術研究開発機構 錦野 将元、 レーザー技術総合研究所 島田 義則	
158	コンクリート内部環境センサー	物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 グループリーダー 西村 俊弥	京都大学、東京工業大学、日本大学	
159	SIPインフラ開発技術の社会実装に向けた支援	慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 教授 大林 厚臣	慶應義塾大学理工学部、京都大学大学院経済学 研究科、(株)価値総合研究所	

内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP） レジリエントな防災・減災機能の強化

事業紹介

災害情報をリアルタイムに共有・利活用する基盤や、地域の防災力UPに役立つ仕組みを構築

「レジリエントな防災・減災機能の強化」では、地震、津波、豪雨・竜巻、液状化などの災害に対して、「災害を予測する」「災害を予防する」「災害に対応する」の3方向から、研究や実装を進めています。これらを可能にする鍵を握るのは、情報共有です。私たちは、この情報共有の仕組み作りと利活用を最重要課題に据えて、超スマート社会「Society5.0」の実現を目指しています。
<https://www.jst.go.jp/sip/k08.html>

●お問い合わせ先 社会技術研究開発センター

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	社会技術研究開発センター	—	
160	津波遡上即時予測システム	防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進 センター	海上・港湾・航空技術研究所、中央大学	
161	豪雨・竜巻予測情報の提供：最新気象レーダーMP-PAWRの活用	情報通信研究機構	首都大学東京、東芝インフラシステムズ（株）、 名古屋大学、防災科学技術研究所、日本気象協会、 鉄道総合技術研究所、埼玉大学、山口大学 国土交通省 国土技術政策総合研究所	
162	リアルタイムな被害状況把握と災害情報の「集約」 「共有・統合」提供：SIP4D	防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進 センター	(株)日立製作所、東京工業大学、芝浦工業大学、 国立病院機構災害医療センター、摂南大学、弘前 大学、(株)竹中工務店技術研究所、農業・食品 産業技術総合研究機構、(株)コア、(株)オサン・ テクノス、(株)複合技術研究所、ニタコンサルタント (株)、新潟大学、富山大学、筑波大学、理化学 研究所、宇宙航空研究開発機構、東京大学、 産業技術総合研究所、国土交通省 国土技術政策 総合研究所	
163	通信手段の迅速な回復技術：NerveNetとICTユニット	情報通信研究機構	(株)NTTデータ、(株)NTTドコモ、 NTT未来なつと研究所、会津大学、東北大学	

出展者一覧 19/23

戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究（ERATO）

事業紹介

新しい科学技術の潮流の創出を目指す卓越したリーダーたちの独創的な基礎研究

ERATOは、卓越した研究者のリーダーシップによって新しい科学技術の潮流を創出を目指すJSTの研究推進事業の1つです。研究リーダーの独創的なアイデアとリーダーシップの下、これまでにない挑戦的なテーマに集中的に取り組むことで新たな科学技術の潮流をつくり、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションの創出を目指しています。今回は4つのプロジェクト（安達分子エキシトン工学、川原万有情報網、野村集団微生物制御、山元アトムハイブリッド※）が出展し、研究成果をご紹介します。

※山元アトムハイブリッドプロジェクトはセミナーのみ。

●お問い合わせ先 研究プロジェクト推進部

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
167	事業紹介展示	研究プロジェクト推進部	—	
164	未開拓の分子エキシトン過程の解明とデバイスへの展開	ERATO安達分子エキシトン工学プロジェクト/九州大学 最先端有機光エレクトロニクス研究センター センター長/教授 安達 千波矢	—	
165	集団微生物制御を可能とする基盤技術の確立	ERATO野村集団微生物制御プロジェクト/筑波大学 生命環境系 教授 野村 暢彦	—	
166	ソフトロボティクスと無線給電のこれから	ERATO川原万有情報網プロジェクト/東京大学 大学院 情報理工学系研究科 准教授 川原 圭博	—	

産学共創プラットフォーム 共同研究推進プログラム(OPERA)

事業紹介

「組織」対「組織」による本格的な産学共同研究の推進

平成28年度発足の公募プログラムです。非競争領域における本格的な産学共同研究のスキームについてご紹介するとともに、すでに採択した7つの研究領域・共創コンソーシアムをご紹介します。各領域・共創コンソーシアムへの新規参画を含め、ご質問・ご相談などございましたらぜひお立ち寄りください。

●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部 共創グループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
170	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部 共創グループ	—	
168	有機材料の極限機能創出・社会システム化共創コンソーシアム	山形大学 有機材料システム研究推進本部 理事・副学長 大場 好弘	—	
169	「ゲノム編集」産学共創コンソーシアム	広島大学 大学院理学研究科 教授 山本 卓	—	
171	量子アプリア共創コンソーシアム（QISS）	大阪大学 核物理研究センター センター長 中野 貴志	—	
172	社会活動継続技術共創コンソーシアム（SOFTech）	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 教授 山田 哲	—	
173	埋込型・装着型デバイス共創コンソーシアム	信州大学 先端融合研究群 バイomedical研究所/医学部 所長/教授 齋藤 直人	—	

出展者一覧 20/23

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
174	I T・輸送システム産学共創コンソーシアム	東北大学 国際集積エレクトロニクス研究開発センター センター長 遠藤 哲郎	—	
175	人間機械協奏技術コンソーシアム (HMHSコンソーシアム)	名古屋大学 未来社会創造機構 教授 武田 一哉	—	

中国総合研究・さくらサイエンスセンター（CRCC）

事業紹介				
日中両国の科学技術および教育分野において、人と情報の強力なネットワーク形成を推進 中国総合研究・さくらサイエンスセンターのミッションは、さくらサイエンスプラン等の施策を通して、中国をはじめとするアジア地域の科学技術および教育分野において、人と情報の強力なネットワークを形成するハブとして、イノベーション創出のための基盤構築に貢献することです。また「環境」「エネルギー」「少子高齢化」「資源や食糧問題」等、共通の課題を解決するために貢献します。 主な事業内容 ● 中国の科学技術・教育を中心とした調査研究とシンポジウム・研究会の開催 ● 「サイエンスポータルチャイナ」「客観日本」による日中双方向の情報発信 ● 日中大学フェア&フォーラムを中心とした交流事業 ● 産学連携等に資する共通課題解決のためのイノベーション創出基盤の構築 ● 自然科学および中国研究に関する文献データベースの構築・提供 ● さくらサイエンスプランの推進 ● お問い合わせ先 中国総合研究・さくらサイエンスセンター（CRCC）				
ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
176	事業紹介展示	中国総合研究・さくらサイエンスセンター（CRCC）	—	—
177～204	日中大学フェア2018	—	—	—

出展者一覧 21/23

センター・オブ・イノベーション(COI) プログラム

事業紹介

人が変わる。社会が変わる。新しい未来を作りたい。

人が変わる。社会が変わる。新しい未来を作りたい。潜在している将来社会ニーズから導き出されるあるべき社会の姿、暮らしのあり方を3つのビジョンとして設定し、ビジョン主導型のチャレンジング・ハイリスクな研究開発を推進します。全国18ヶ所にイノベーション拠点(COI拠点)を構築し、ビジョンの実現を目指します。

ビジョン1：少子高齢化先進国としての持続性確保

ビジョン2：豊かな生活環境の構築（繁栄し、尊敬される国へ）

ビジョン3：活気ある持続可能な社会の構築

●お問い合わせ先 イノベーション拠点推進部 COIグループ

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
—	事業紹介展示	イノベーション拠点推進部 COIグループ	—	
—	COIゾーン・プレゼンテーションシアター	—	—	
205	フロンティア有機システムイノベーション拠点	中核機関：山形大学（プロジェクトリーダー：三宅 徹（大日本印刷）、研究リーダー：大場 好弘（山形大学））	—	
206	コヒーレント光子技術によるイノベーション拠点	中核機関：東京大学（プロジェクトリーダー：湯本 潤司（東京大学）、研究リーダー：常行 真司（東京大学））	—	
207	革新材料による次世代インフラシステムの構築拠点	中核機関：金沢工業大学（プロジェクトリーダー：池端 正一（大和ハウス工業）、研究リーダー：鶴澤 潔（金沢工業大学））	—	
208	世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献するアクア・イノベーション拠点	中核機関：信州大学（プロジェクトリーダー：都築 浩一（日立製作所）、研究リーダー：遠藤 守信（信州大学））	—	
209	感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点	中核機関：慶應義塾大学（プロジェクトリーダー：松原 健二（ロングフェロー）、研究リーダー：村井 純（慶應義塾大学））	—	
210	「感動」を創造する芸術と科学技術による共感覚イノベーション拠点	中核機関：東京藝術大学（プロジェクトリーダー：山本 耕志（（株）JVCケンウッド）、研究リーダー：桐山 孝司（東京藝術大学））	—	
211	人がつながる“移動”イノベーション拠点	中核機関：名古屋大学（プロジェクトリーダー：畔柳 滋（トヨタ自動車）、研究リーダー：森川 高行（名古屋大学））	—	
212	持続的共進化地域創成拠点	中核機関：九州大学（プロジェクトリーダー：石原 晋也（西日本電信電話）、研究リーダー：若山 正人（九州大学））	—	
213	人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点	中核機関：大阪大学（プロジェクトリーダー：上野山 雄（パナソニック（株））、研究リーダー：松本 和彦（大阪大学））	—	
214	精神的価値が成長する感性イノベーション拠点	中核機関：広島大学（プロジェクトリーダー：農沢 隆秀（マツダ（株））、研究リーダー：山脇 成人（広島大学））	—	
215	さりげないセンシングと日常人間ドックで実現する理想自己と家族の絆が導くモチベーション向上社会創生拠点	中核機関：東北大学（プロジェクトリーダー：和賀 庵（NECソリューションイノベータ）、研究リーダー：末永 智一（東北大学））	—	
216	『サイレントボイスとの共感』地球インクルーシブセンシング研究拠点	中核機関：東京工業大学（プロジェクトリーダー：廣井 聡幸（ソニー（株））、研究リーダー：若林 整（東京工業大学））	—	
217	『食と健康の達人』拠点	中核機関：北海道大学（プロジェクトリーダー：吉野 正則（日立製作所）、研究リーダー：玉腰 暁子（北海道大学））	—	
218	スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点	中核機関：川崎市産業振興財団（プロジェクトリーダー：木村 廣道（川崎市産業振興財団）、研究リーダー：片岡 一則（川崎市産業振興財団））	—	

出展者一覧 22/23

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者	共同研究者	持続可能な開発目標
219	活力ある生涯のためのLast 5X イノベーション拠点	中核機関：京都大学（プロジェクトリーダー：野村 剛（パナソニック）、研究リーダー：小寺 秀俊（京都大学））	—	
220	運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点	核機関：立命館大学（プロジェクトリーダー：田中 孝英（オムロンヘルスケア）、研究リーダー：伊坂 忠夫（立命館大学））	—	
221	真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点	中核機関：弘前大学（プロジェクトリーダー：工藤 寿彦（マルマンコンピュータサービス）、研究リーダー：中路 重之（弘前大学））	—	
222	自分で守る健康社会拠点	中核機関：東京大学（プロジェクトリーダー：池浦 富久（東京大学）、研究リーダー：鄭 雄一（東京大学））	—	
223	COI若手連携研究ファンド（若手ファンド）	イノベーション拠点推進部 COIグループ	—	

「科学と社会」推進部

事業紹介

未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

「科学と社会」推進部は、科学技術イノベーションと社会との問題について、様々なステークホルダーが双方向で対話・協働し、それらを政策形成や知識創造、社会実装等へと結びつける「共創」を推進しています。科学フォーラム「サイエンスアゴラ」の開催や、地域における対話・協働活動に対する支援、各種メディアを通じた情報発信、多様なステークホルダーとの共創活動を促進するオープンプラットフォームの構想の推進等を行っています。

●お問い合わせ先 「科学と社会」推進部

研究開発戦略センター（CRDS）

事業紹介

国の科学技術イノベーション政策に関する調査、分析、提案を中立的な立場に立つて行う

研究開発戦略センター（CRDS）は、国の科学技術イノベーション政策に関する調査、分析、提案を中立的な立場に立つて行う公的なシンクタンクです。CRDSでは、我が国の産学官関係者や社会のステークホルダーとの連携や情報・意見交換を通じて、国内外の社会や科学技術イノベーションの動向、及びそれらに関する政策動向の把握・俯瞰・分析を行っています。これに基づき、課題を抽出し、科学技術イノベーション政策や研究開発戦略を提言し、その実現に向けた取り組みを行っています。

CRDS新着レポート「Beyond Disciplines – JST/CRDSが注目する12の異分野融合領域・横断テーマ（2018年）–」を発行しました。
(<https://www.jst.go.jp/crds/report/index.html> 『CRDS 報告書』で検索)

CRDSセミナー「異分野の融合・横断が拓く新たな科学技術イノベーション」（8月30日 14：30～16：30 西3ホール）ではCRDSフェローから上記レポートに関する研究開発のホットトピックスを紹介します

●お問い合わせ先 研究開発戦略センター（CRDS） 企画運営室

出展者一覧 23/23

国立研究開発法人等展示

ブースNo.	展示タイトル	所属機関（大学・企業）名 / 出展代表者
A	イノベーション in Aerospace	国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構（JAXA）
B	量子科学技術による「調和ある多様性の創造」	国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
C	国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）について	国立研究開発法人 情報通信研究機構
D	国立研究開発法人海洋研究開発機構	国立研究開発法人 海洋研究開発機構
E	産総研「技術を社会へ！」	国立研究開発法人 産業技術総合研究所
F	国立研究開発法人理化学研究所	国立研究開発法人 理化学研究所
G	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
H	キズの有無を検査する マルチコイル型渦電流探傷センサ	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
I	一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構	一般社団法人 つくばグローバル・イノベーション推進機構
J	国立研究開発法人防災科学技術研究所	国立研究開発法人 防災科学技術研究所
K	農研機構は、みなさまと共に食と農の未来を創ります。	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

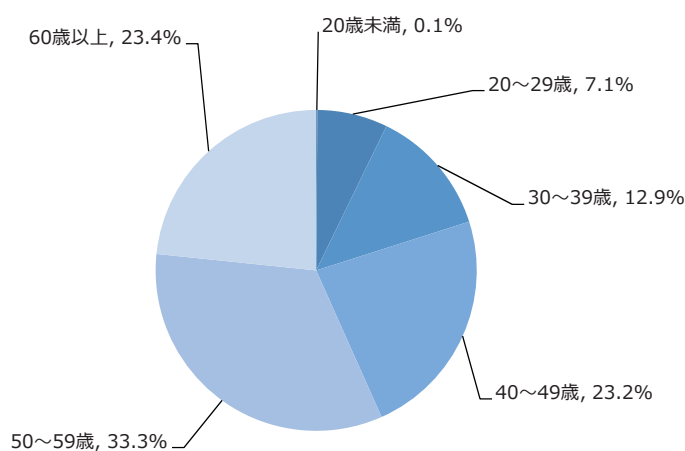
来場者調査結果 1/11

JSTフェアの来場者は、「製造業」が50.7%と過半数を占める。内訳は「電気・電子・情報・通信関連」が39.9%、次いで「材料・化学関連」が25.7%を占めている。職種としては「研究開発」が38.5%、「企画・マーケティング」が17.1%であった。昨年に比べて製造業の方々がJSTフェアへの興味関心が高く来場者増につながった。

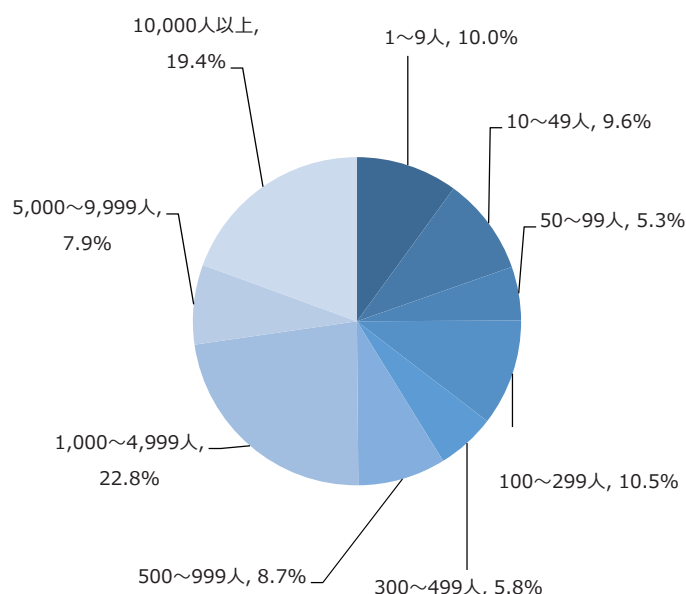
来場者アンケート調査概要

調査方法：「JSTフェア2018」来場者を対象とした調査票記入形式
調査サンプル：1526件

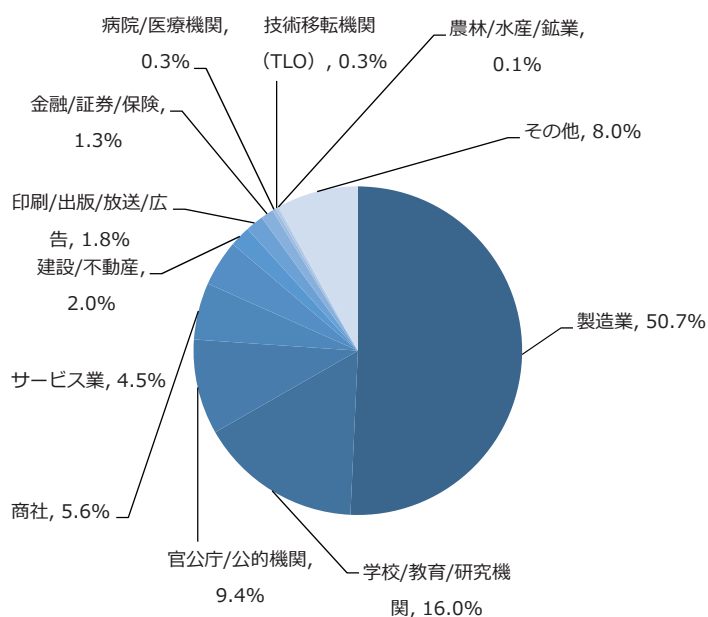
Q1.あなたの年齢をお聞かせください。



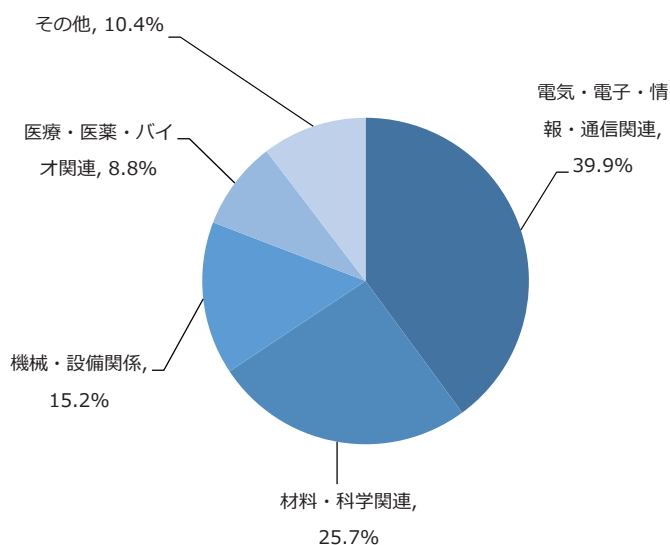
Q3.あなたの所属先の規模をお聞かせください。



Q2.あなたの所属先の業種をお聞かせください。

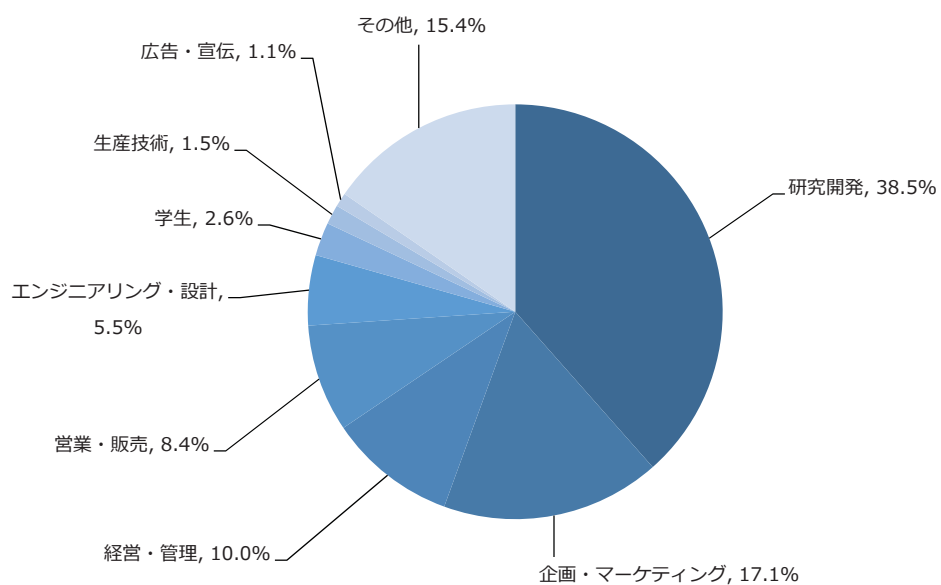


製造業 内訳

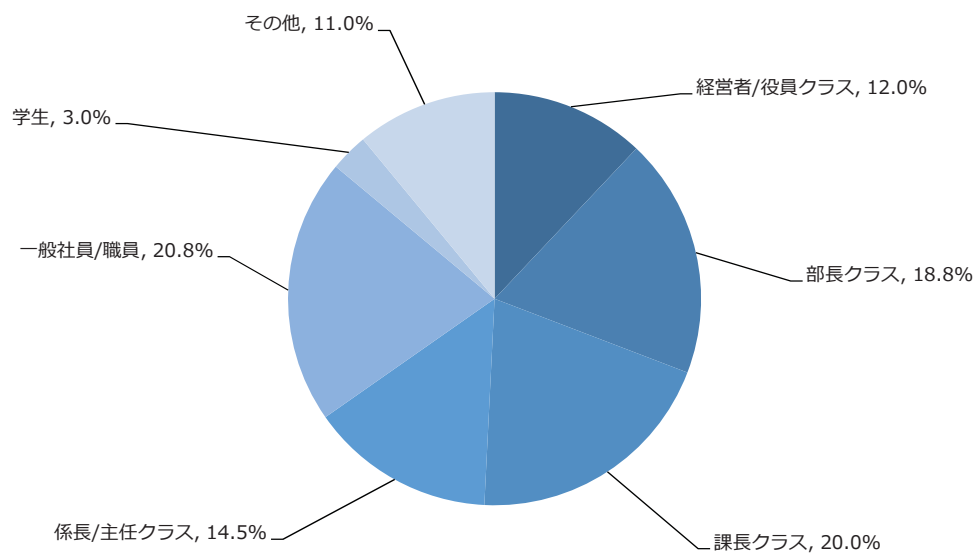


来場者調査結果 2/11

Q4.あなたの業種をお聞かせください。（複数回答可）

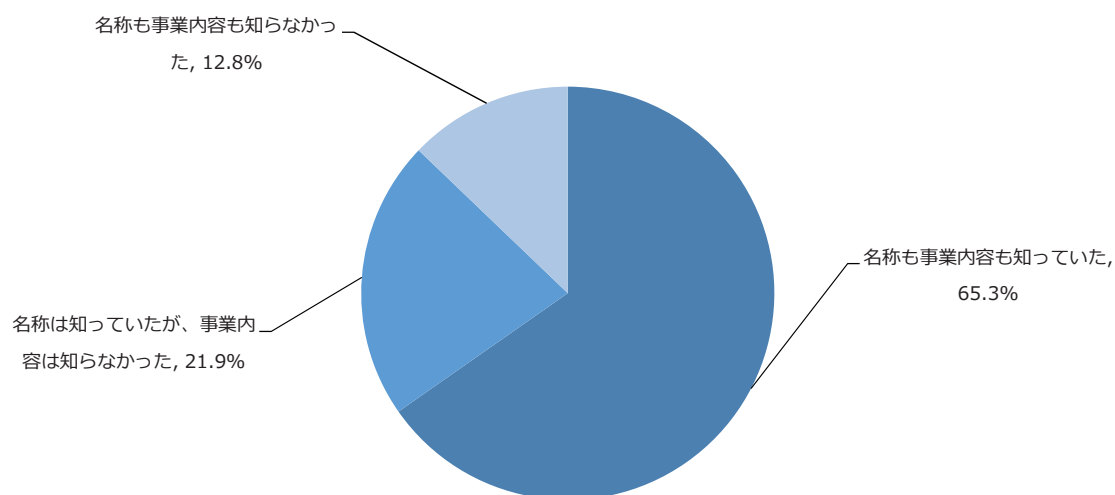


Q5.あなたの役職をお聞かせください。

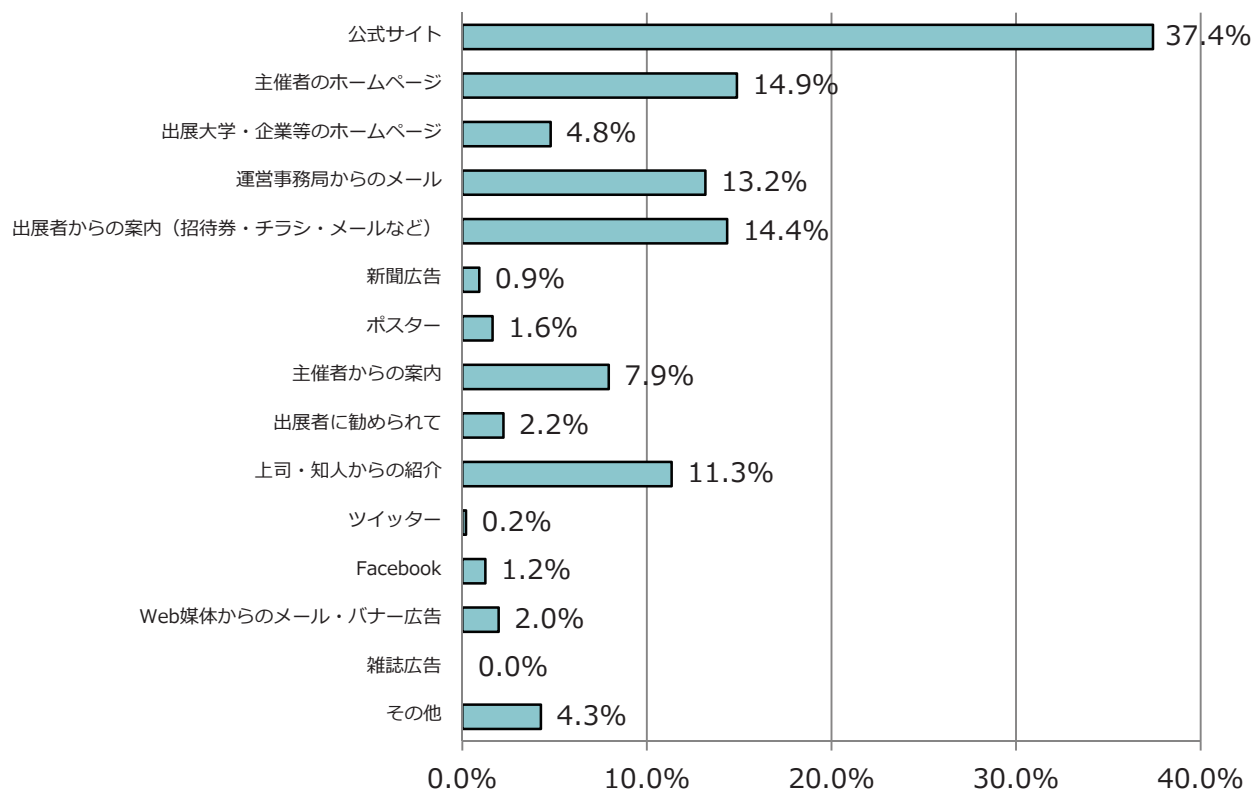


来場者調査結果 3/11

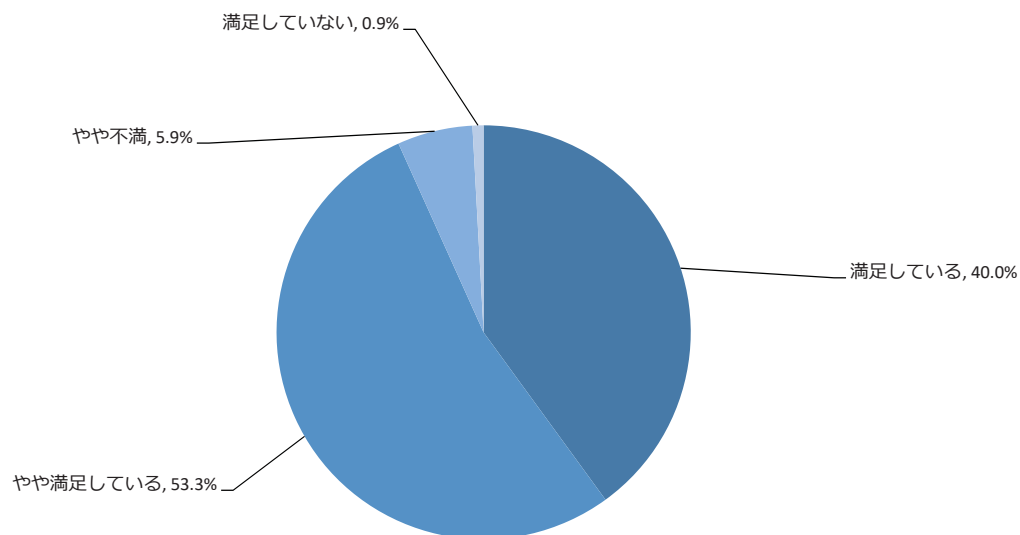
Q6-1.来場前における科学技術振興機構（JST）への認知度についてお聞かせください。



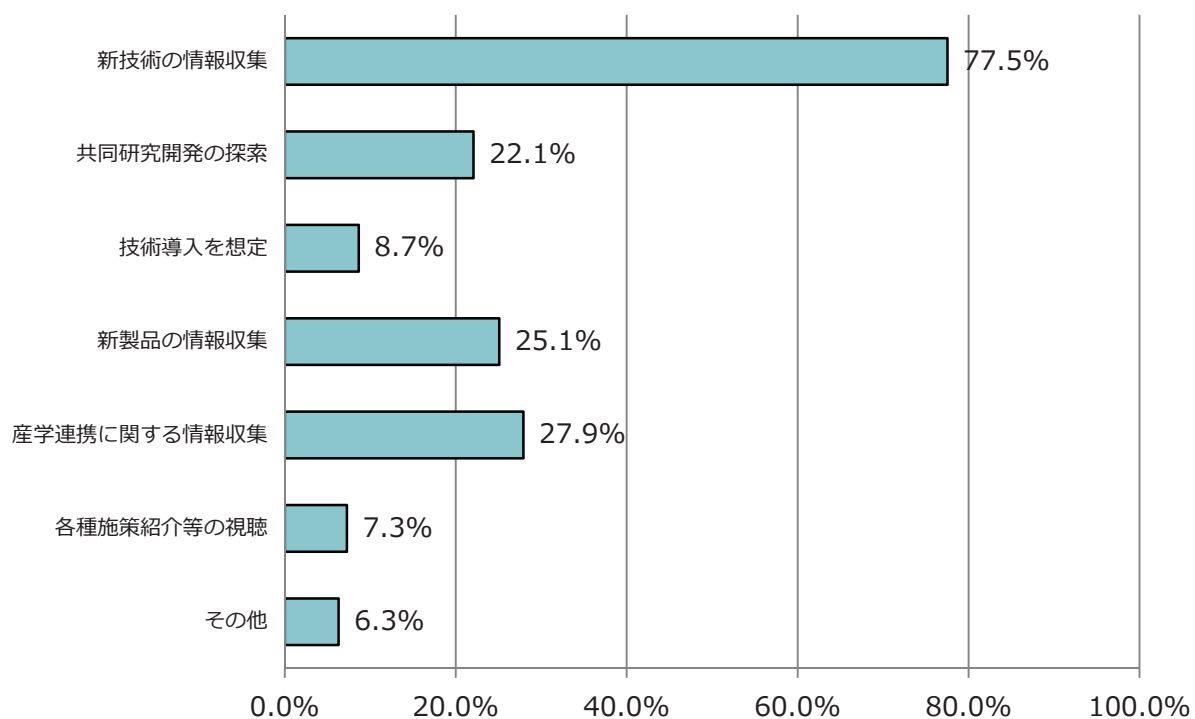
Q6-2.あなたは「JSTフェア2018」に関する情報をつぎのどれから入手しましたか。（複数回答可）



Q7.「JSTフェア2018」への全体の満足度について、お聞かせください。



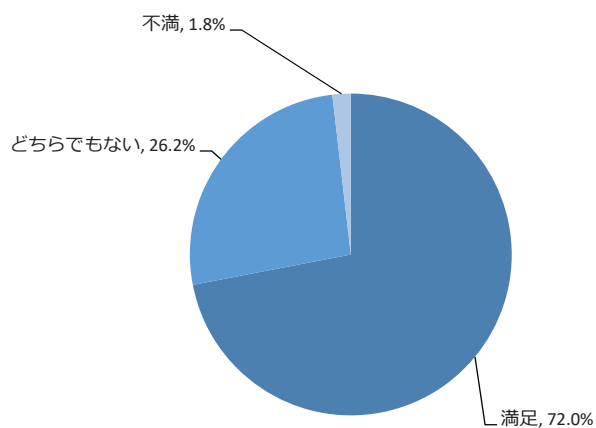
Q8-1.「JSTフェア2018」への来場目的をお聞かせください。（複数回答可）



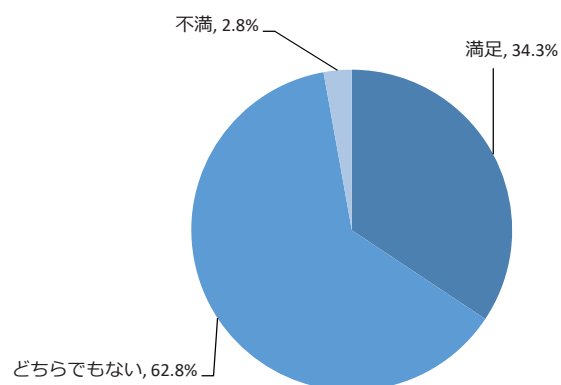
来場者調査結果 5/11

Q8-2.「JSTフェア2018」への満足度をお聞かせください。

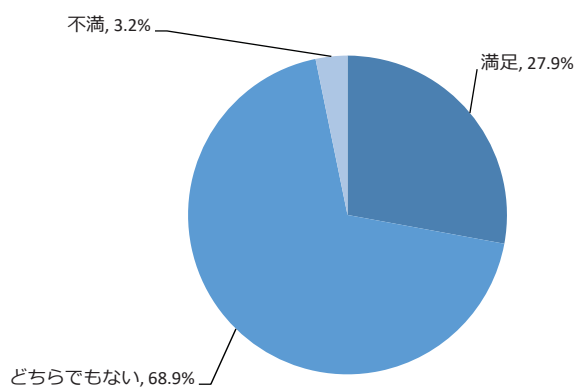
新技術の情報収集



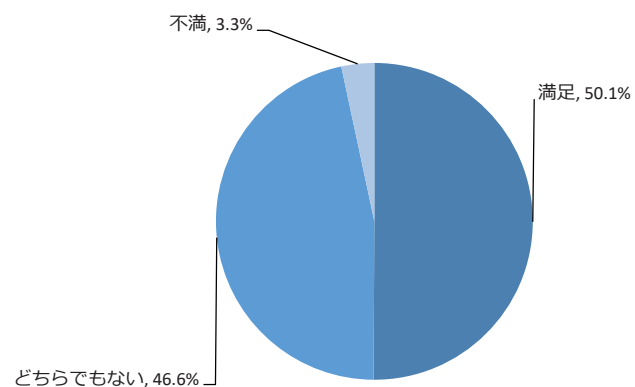
共同研究開発の探索



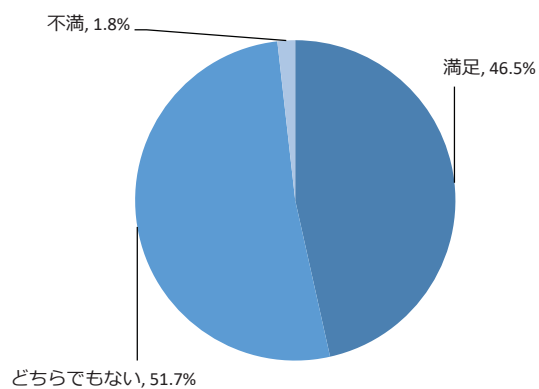
技術導入を想定



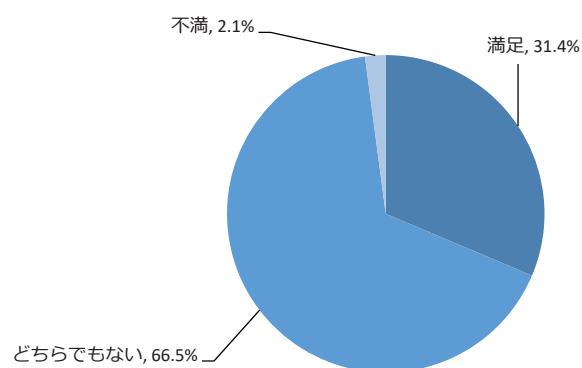
新製品の情報収集



産学連携に関する情報収集



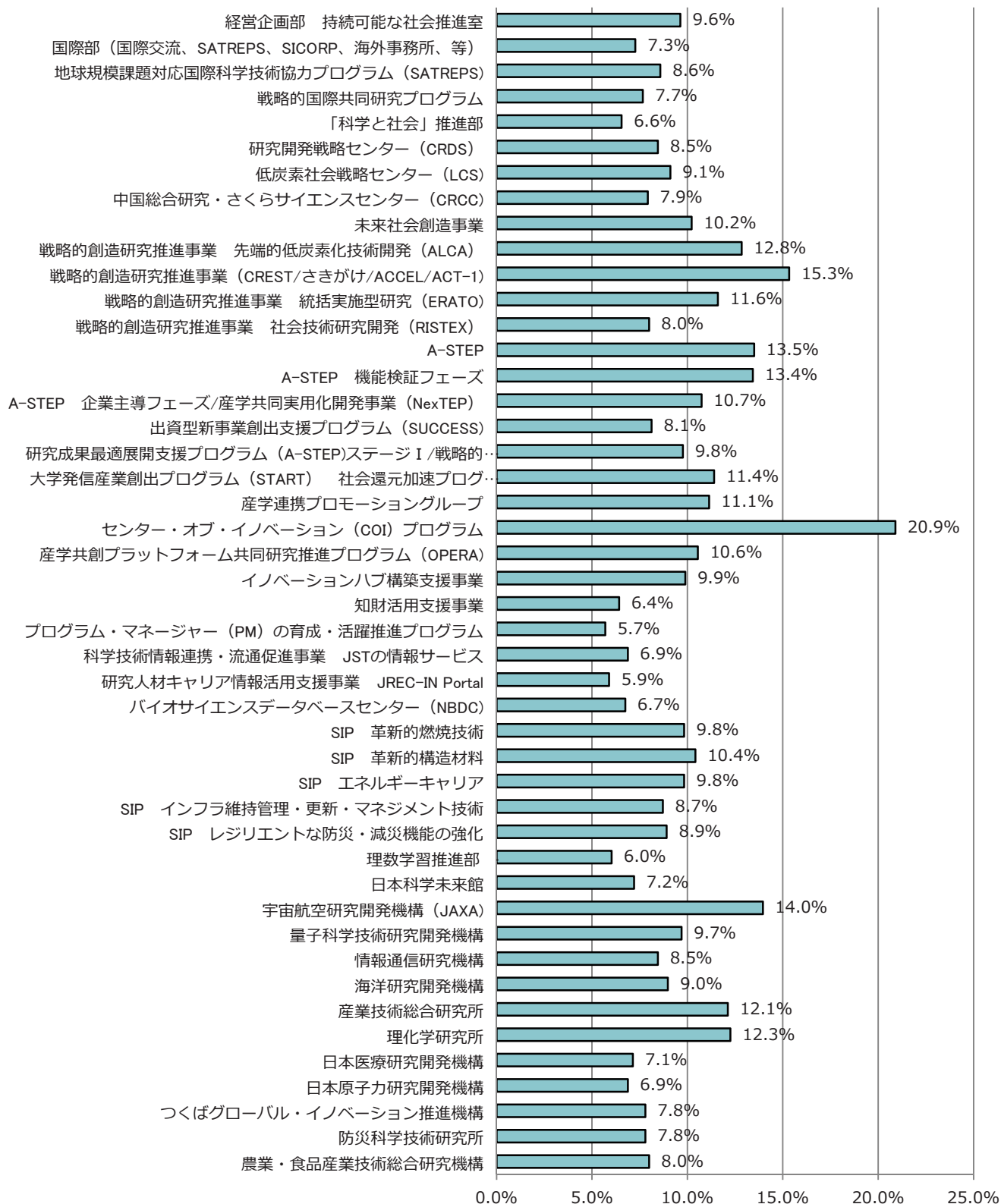
各種施策紹介等の視聴



来場者調査結果 6/11

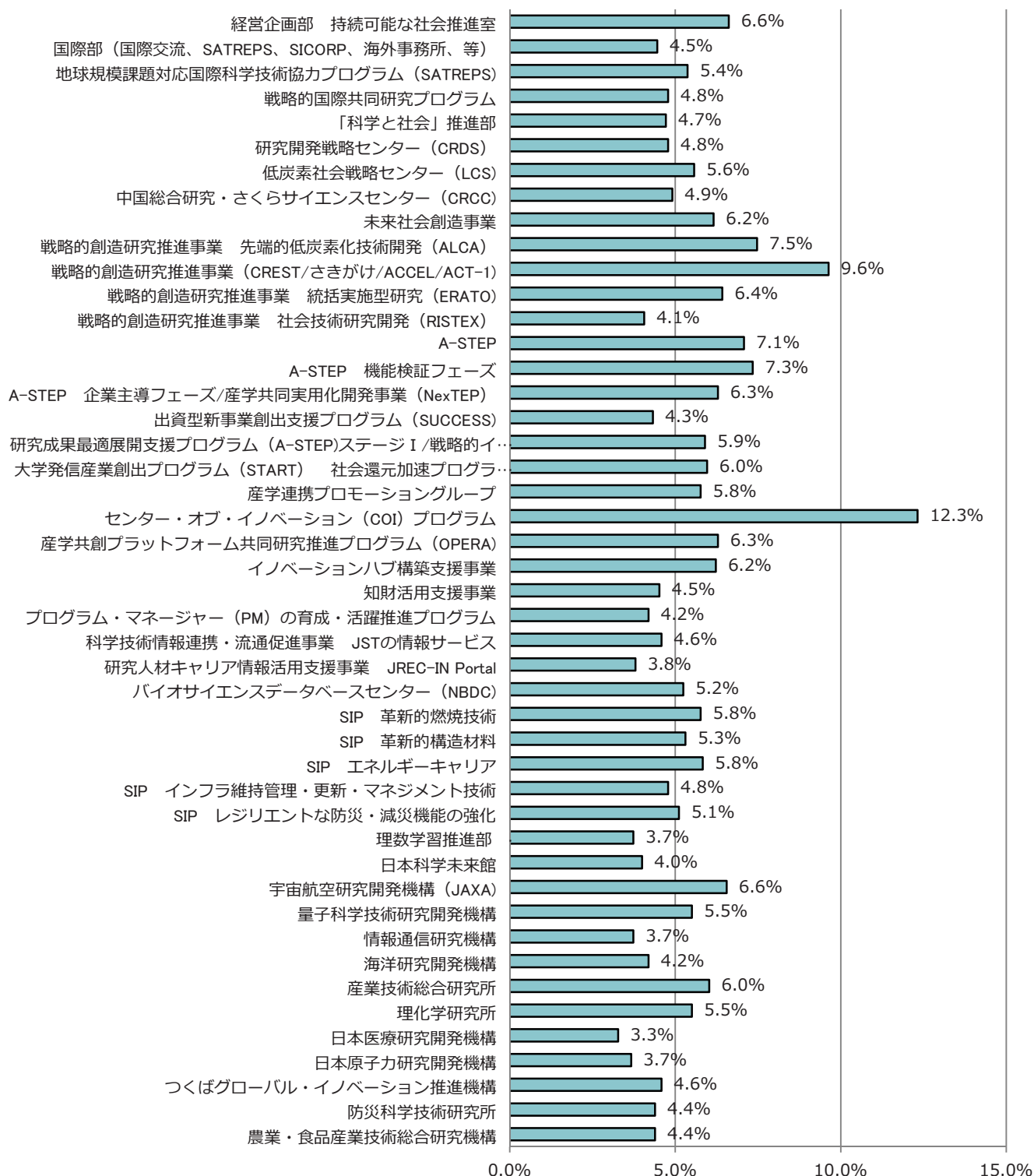
Q9.展示会場で「訪問した」、「参考になった」、「連絡を取りたい」ブースについてチェックを入れてください。（複数回答可）

訪問した



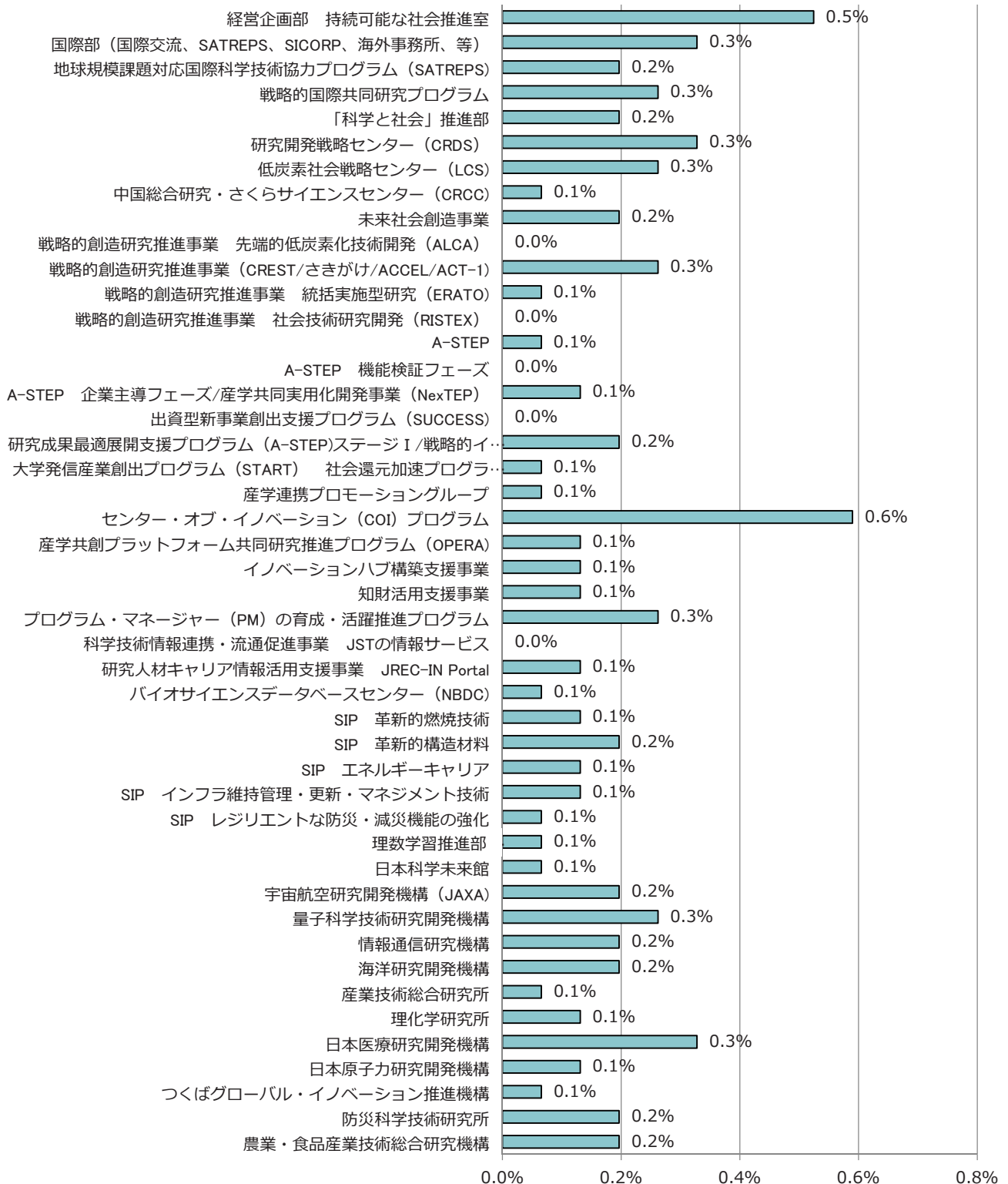
来場者調査結果 7/11

参考になった



来場者調査結果 8/11

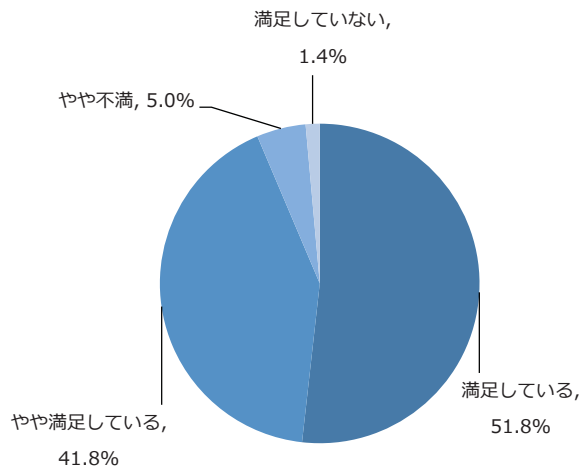
今後も連絡を取りたい



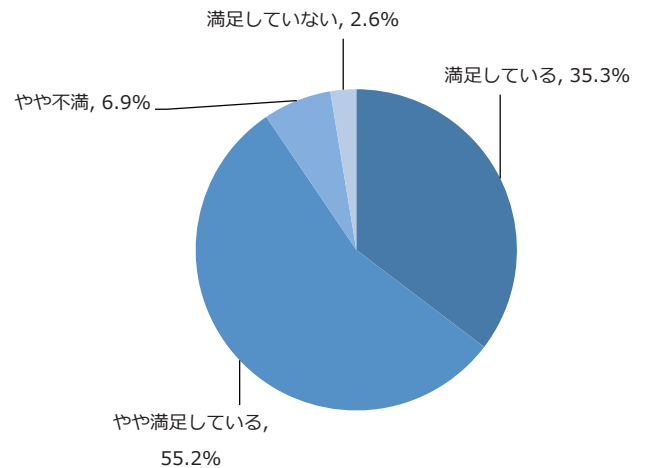
来場者調査結果 9/11

Q10.基調講演、各セミナーの満足度についてチェックを入れてください。

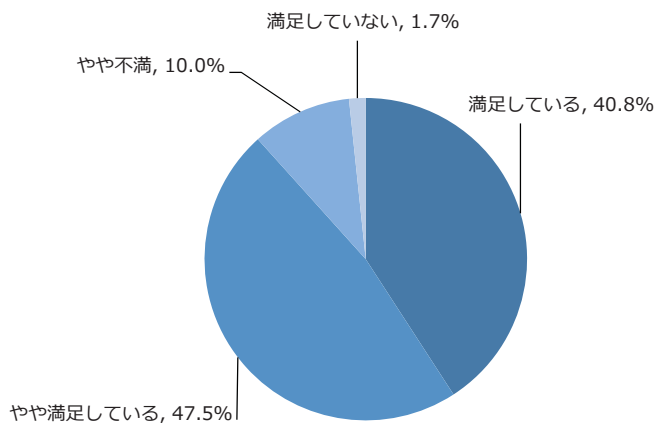
「基調講演」（東京理科大学 生越由美氏）



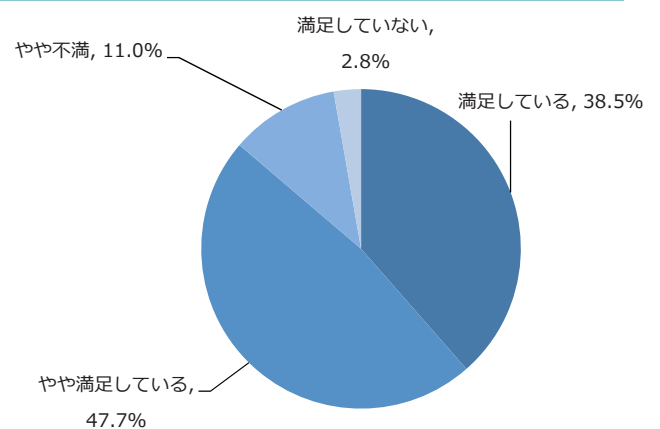
「JST事業セミナー①」



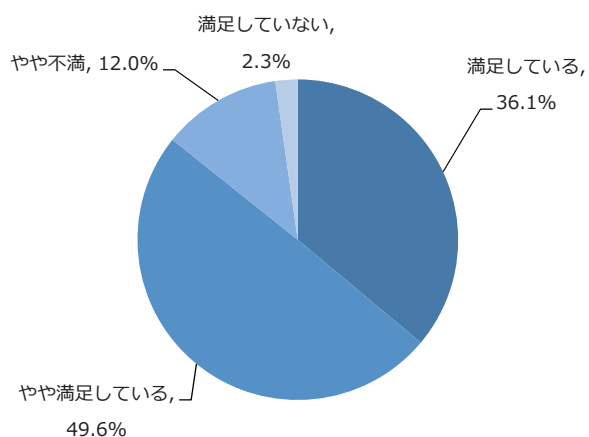
「JST事業セミナー②」



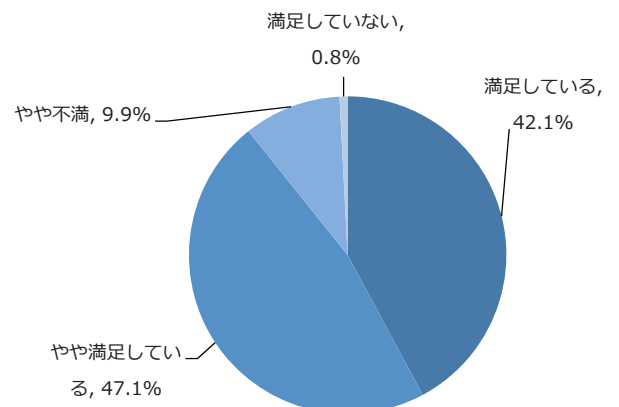
「バイオ・ナノ材料分野の基礎研究から次のイノベーションを考える（ERATO成果紹介）」



「持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた共創」

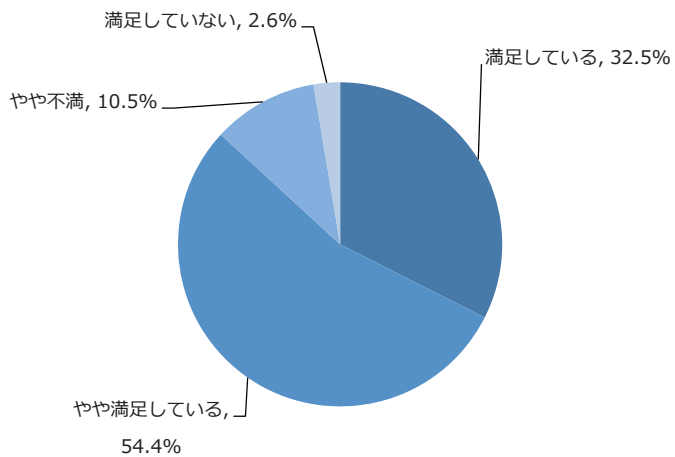


「異分野の融合・横断が拓く新たな科学技術イノベーション」

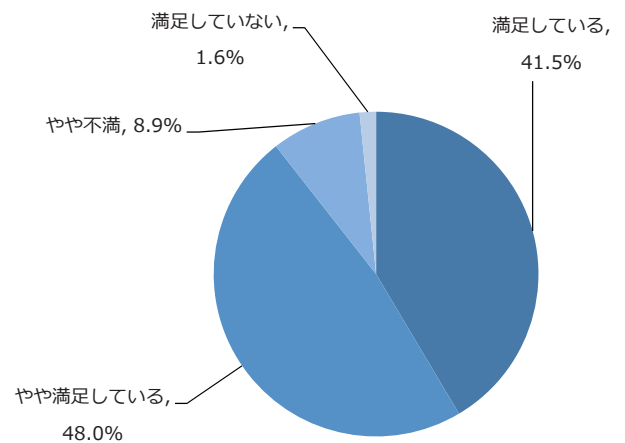


来場者調査結果 10/11

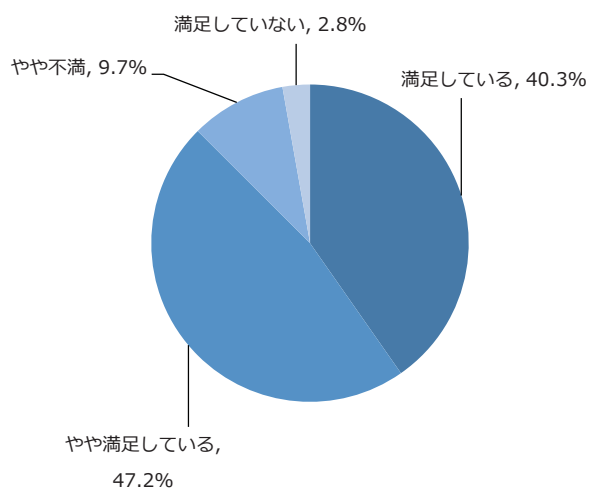
「低炭素社会実現に向けたALCAの技術開発紹介」



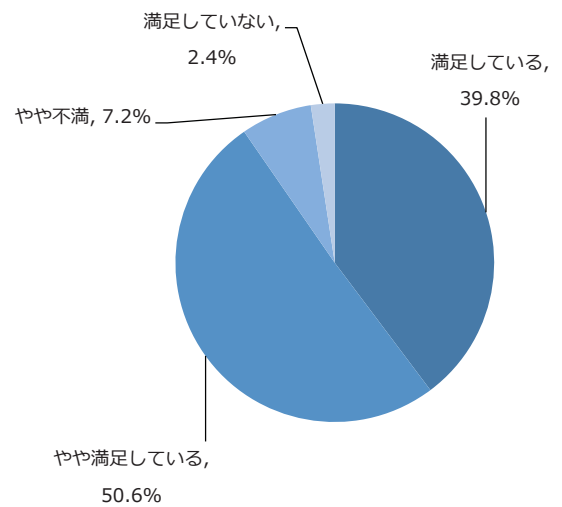
「Society5.0の実現に向けた革新的センサー・デバイス事業」



「COIアクセラレータチーム企画COIシーズピッチ／シーズ事業化のためのミニセミナー」

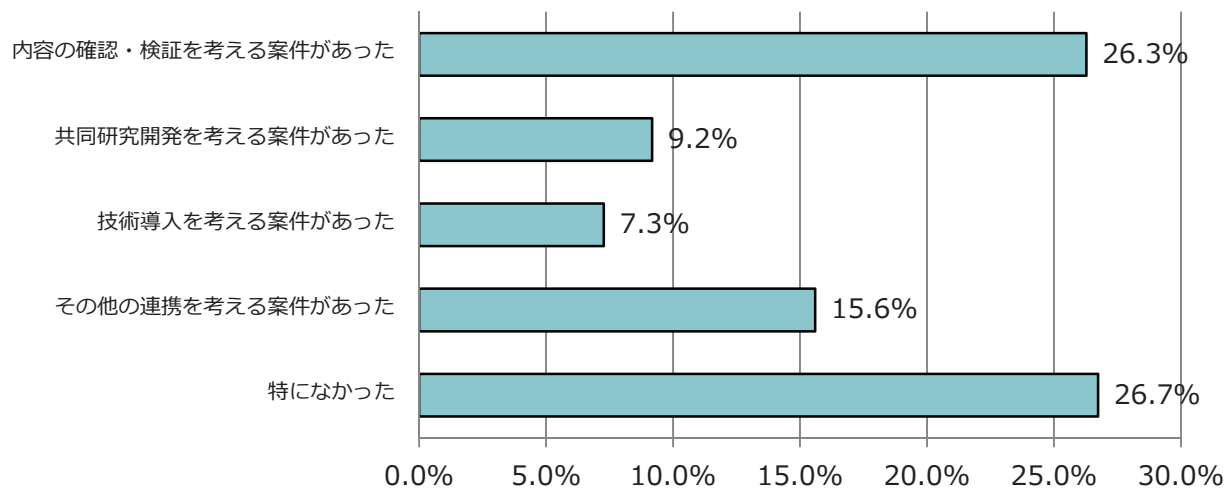


「COI若手連携研究ファンド」

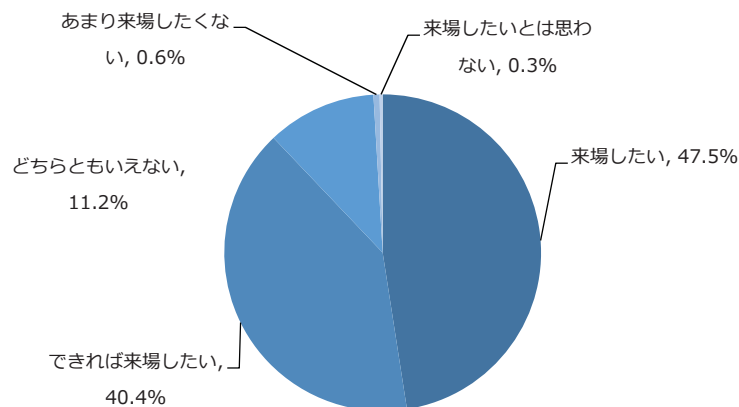


来場者調査結果 11/11

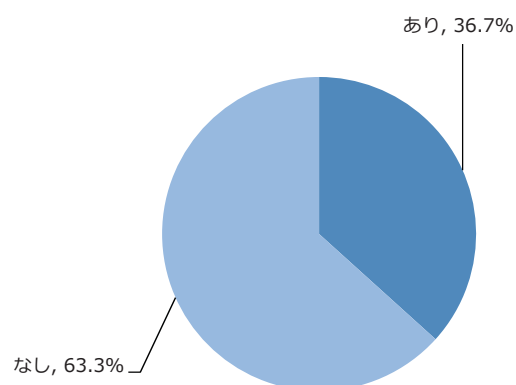
Q16. 研究成果の展示等において、今後の具体的な連携をお考えになった案件はありましたか。



Q17. 次回、本イベントが開催された場合、来場するかどうかお聞かせください。



Q18. 「JSTフェア2017」の出展者の研究成果について、具体的に関心をもたれた研究・展示がありましたら、お書きください。



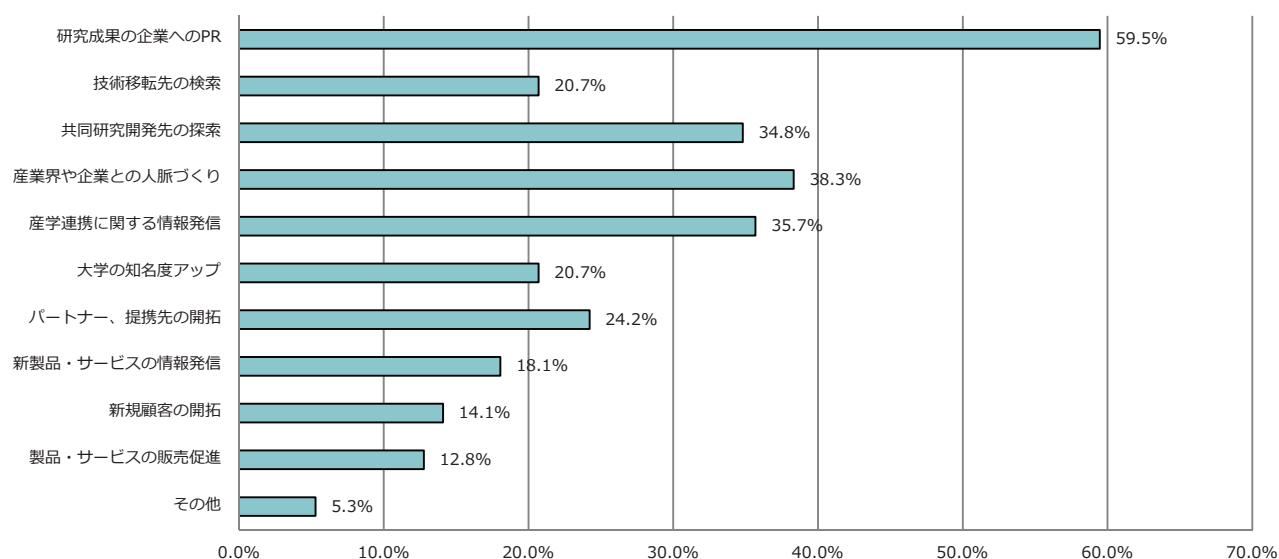
出展者調査結果 1/4

出展の目的が「研究成果の企業へのPR」（59.5%）「産業界や企業との人脈づくり」（38.3%）「産学連携に関する情報発信」（35.7%）と、企業との連携に関する項目の割合が高い。出展・目的に対する成果（「成果が上がった」と「まあ上がった」を合わせて78.6%）やJSTフェアに参加しての満足度（「満足」と「やや満足」を合わせて93.8%）は高く、一定以上の効果と評価が得られた。

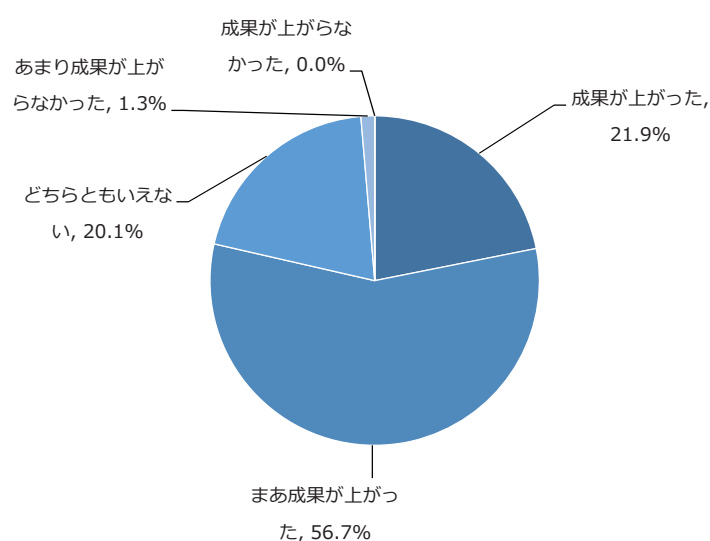
出展者アンケート調査概要

調査方法：「JSTフェア2018」出展者を対象とした調査票記入形式
 調査サンプル：231件

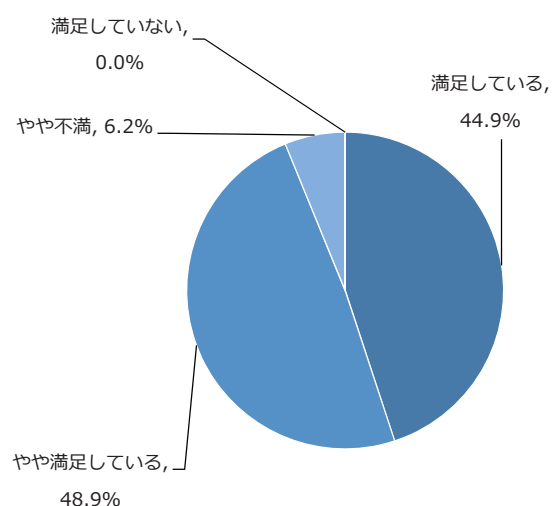
Q1. 今回の出展目的を、改めてお聞かせください。



Q2. 上記の出展・目的に対する成果はいかがでしたか。

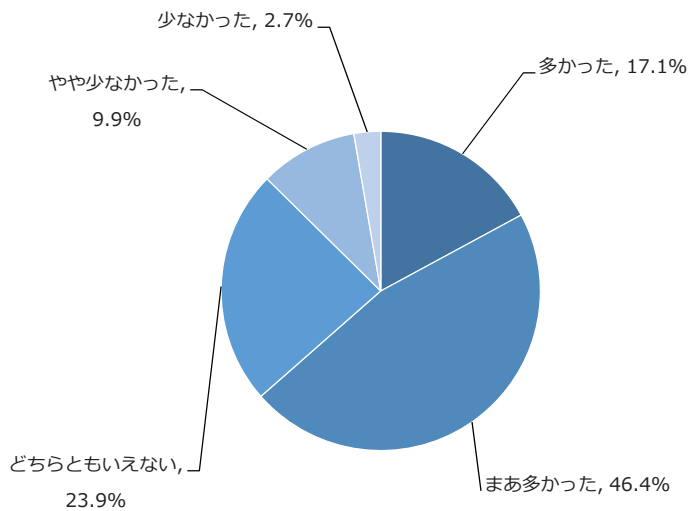


Q3. 今回の「JSTフェア2018」に参加しての満足度をお聞かせください。

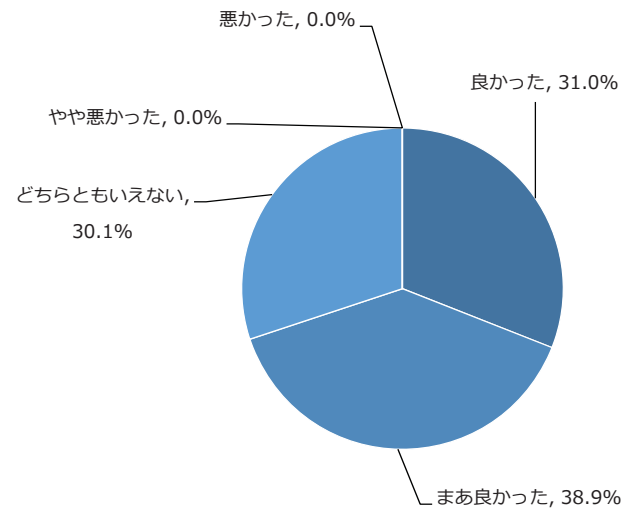


出展者調査結果 2/4

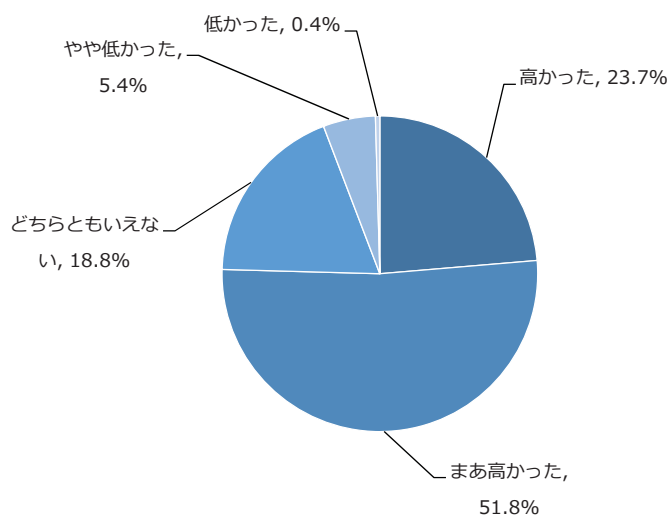
Q4.来場者の「数」については、どうお感じになりましたか。



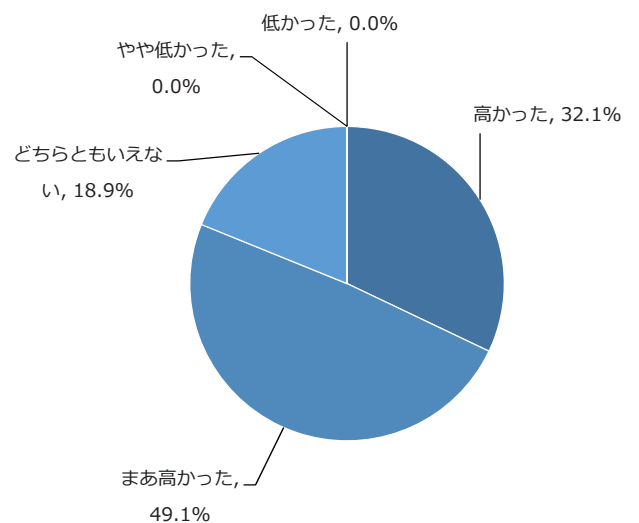
Q5.他の展示会と比べて、来場者の「質」については、どうお感じになりましたか。



Q6.今回、展示された内容に対する来場者の関心はいかがでしたか。

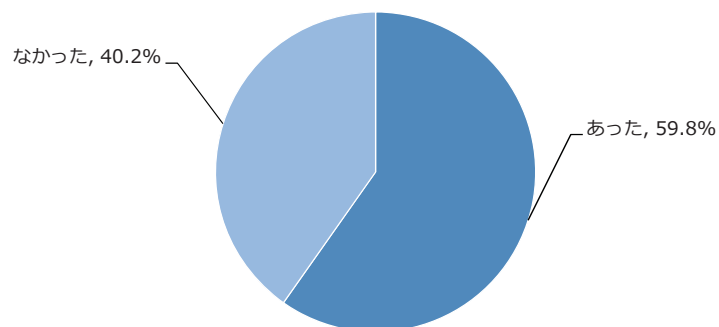


Q7.「プレゼンテーション会場 / セミナー会場」で発表された方にお伺いします。今回、プレゼンテーションされた内容に対する来場者の関心についてどう思いましたか。

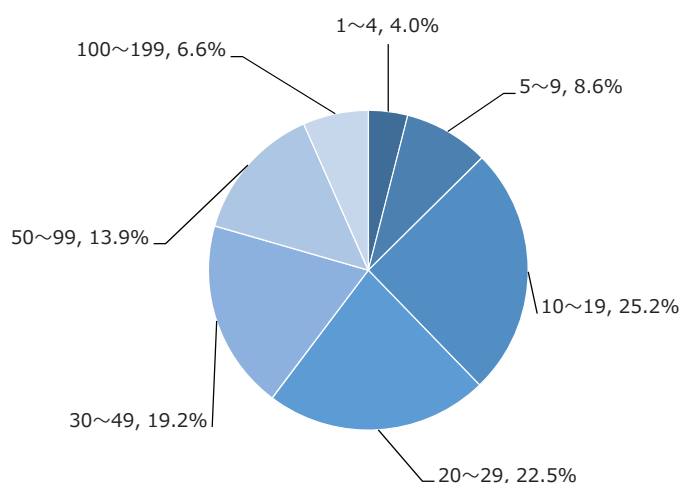


出展者調査結果 3/4

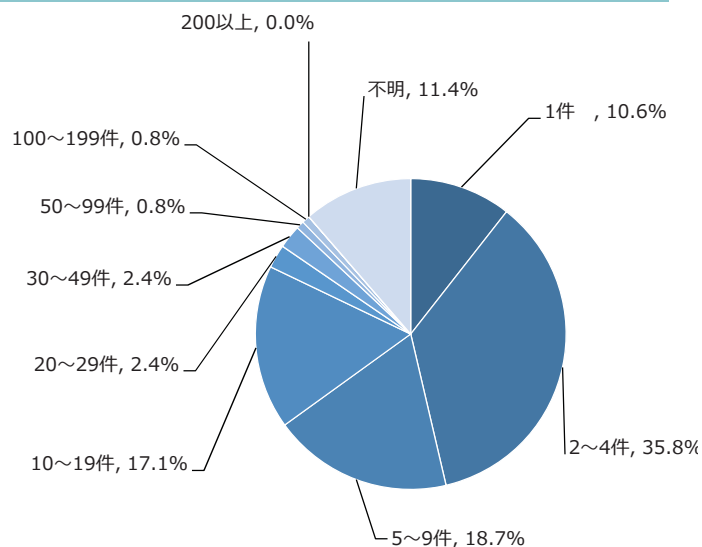
Q8.来場者や他の出展者などから、問い合わせ、商談、交渉などありましたか。



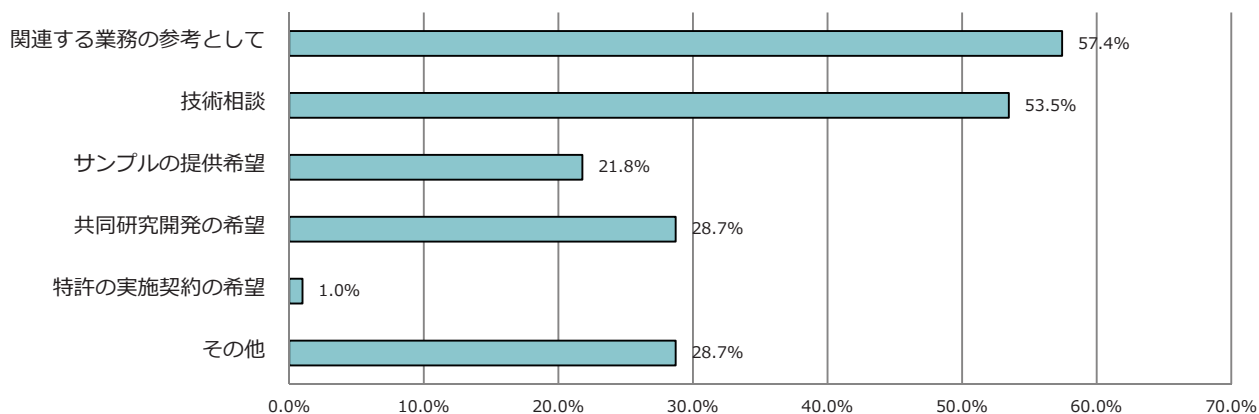
収集した名刺の数



商談・交渉の件数

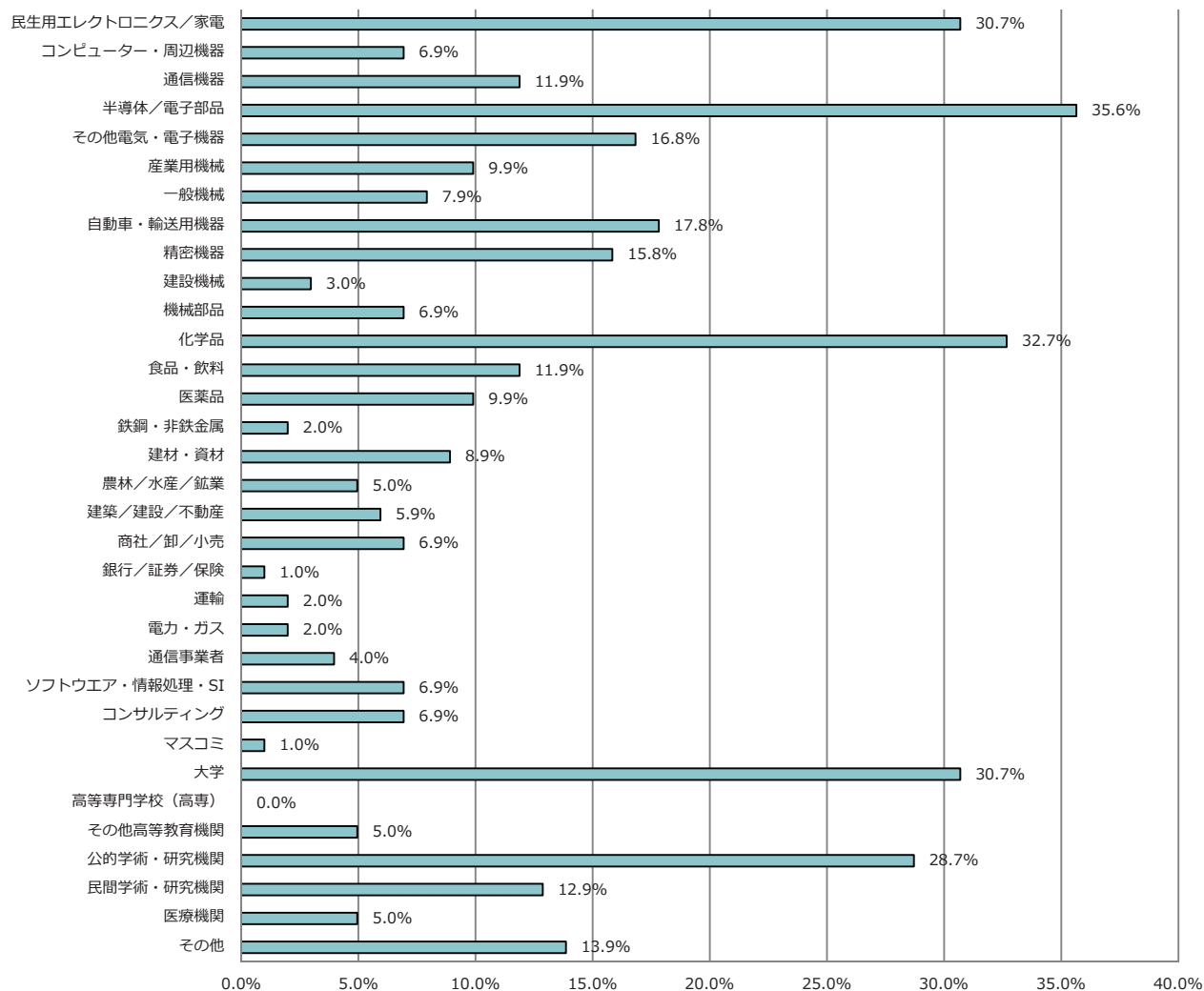


Q9.質問に「あった」と回答された方にお伺いします。問い合わせ商談、交渉などは、具体的にはどのような内容でしたか。

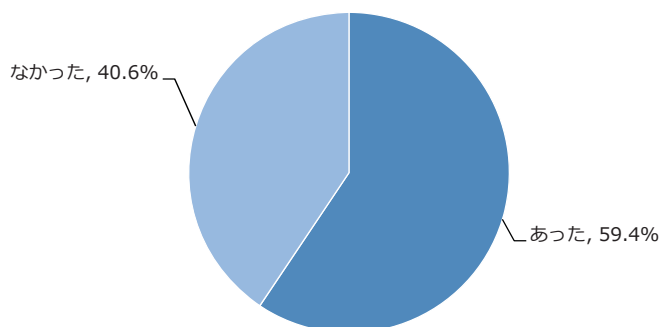


出展者調査結果 4/4

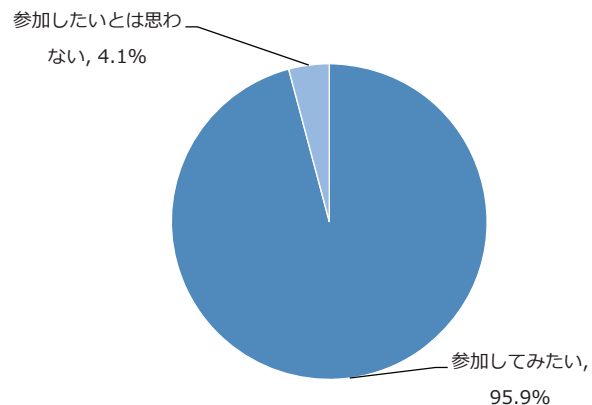
Q10.「あった」と回答された方にお伺いします。問い合わせ、商談、交渉などの相手先は、どのような業種でしたか。



Q11.「JSTフェア2018」展示会場で役に立ったゾーン、ブースはありましたでしょうか。



Q12.今後も「JSTフェア2018」のような展示会イベントに参加してみたいと思いますか。



[illegible]

<JSTフェア2018招待券 表面>



The front of the invitation ticket features the JST Fair 2018 logo and the theme "科学技術による未来の産業創造展". It includes the event dates and times: 2018.8.30 [THU] 10:00-17:30 and 8.31 [FRI] 10:00-17:00, held at the Tokyo Big Sight West 3 Hall. A central graphic displays the Sustainable Development Goals (SDGs) icons. The right side contains a detailed schedule of events, including seminars, exhibitions, and performances, with specific times and topics listed for each day.

<JSTフェア2018招待券 裏面>



The back of the invitation ticket provides a comprehensive list of exhibitors and sponsors. It is organized into columns, each representing a different organization or group. The exhibitors include various research institutions, universities, and industry companies. The sponsors section at the bottom right lists the official partners of the event, including the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and the Japan Science and Technology Agency (JST).

<JSTフェア2018招待券発送用封筒>



The back of the invitation ticket envelope features the JST Fair 2018 logo and the theme "科学技術による未来の産業創造展". It includes the event dates and times: 2018.8.30 [THU] 10:00-17:30 and 8.31 [FRI] 10:00-17:00, held at the Tokyo Big Sight West 3 Hall. The envelope also lists the main organizers (主催) and the supporting organizations (後援). The main organizers are the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and the Japan Science and Technology Agency (JST). The supporting organizations include the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), and various industry associations. The official website for the event is provided at the bottom: <http://www.jst.go.jp/tt/jstfair2018/>.

＜JSTフェア2018事前チラシ＞



JSTフェア2018

Japan Science and Technology Agency Fair

— 科学技術による未来の産業創造展 —

2018年
8月30日(木)・31日(金)
10:00～17:30 10:00～17:00

東京ビッグサイト 西3ホール

「未来の産業創造」を目指した、独立研究開発法人科学技術振興機構(JST)両の研究開発成果が一瞥に会えるJSTフェアを今年も東京ビッグサイトにて開催します。将来の社会・経済に貢献する革新的な研究事例や産学連携成果による創発化事例などを展示するとともに、JSTの事業担当部署や会場内に常駐し、各種支援事業制度等のご紹介やご相談にも応じます。

主催:  科学技術振興機構 共催: (VITEC)  文部科学省

会場: 東京ビッグサイト西3ホール(東京都江東区有明3-1-1)

お問い合わせ: JST学術連携課 学術連携プロモーショングループ ttaevent@jst.go.jp

お申し込みページは随時更新 詳しくは随時更新はこちら→<http://www.jst.go.jp/tv/tair2017/>






表



Innovation JAPAN 2018



～大学見本市 & ビジネスマッチング～

2018年

8月30日(木)・31日(金)

9:30～17:30 10:00～17:00

東京ビッグサイト 西1ホール

入場
無料

事前登録制

今年で15回目となる国内最大規模の産学マッチングイベントです。500を超える大学、ベンチャー・中小・中堅企業等の研究開発の成果を展示・発表します。大学見本市では、研究費による成果展示に加え、大学が組織として展示・発表を行い、産業界に対し本邦の産学連携の促進を行います。大型の共同研究開発に向けた新たなパートナーシップの創造と醸成を期待する場を増加します。

主催：JST 科学技術振興機構
独立行政法人 科学技術振興機構

共催：学芸：文部科学省 経済産業省

会場：東京ビッグサイト 西1ホール (東京都江東区有明 3-1-1)

お問い合わせ：JST 産学連携課 産学連携プロモーショングループ entry@jst.go.jp

公式ホームページ公開中
 詳細の開催要項などはこちら。→ <http://www.jst.go.jp/te/fair/ij2017/>

協賛：Friede
独立行政法人 経済産業省 独立行政法人 経済産業省 独立行政法人 経済産業省

裏

＜オープンイノベーション共創シンポジウム事前チャシ＞

Open Innovation Curriculum Symposium

オープンイノベーション共創シンポジウム

世界で最もイノベーションに適した国へ

2018年8月30日 [木]

12:30-15:00 東京ビッグサイト 会議棟1層
レセプションホールA

公式ホームページ
<http://www.jst.go.jp/it/mext/2018>

お問い合わせ先
オープンイノベーション共創シンポジウム運営事務局
Tel. 03-5614-0789 (受付 10:00~18:00)
Fax. 03-5649-2641
Mail. mextsympo@jstfair.com

一日開催

JSTフェア2018
—科学技術による未来の産業地図展—
2018年8月30日(木)・31日(金)
URL: <http://www.jst.go.jp/it/jstfair2018/>

イノベーション・ジャパン2018
—大学発中核型ビジネスマッチング—
2018年8月30日(木)・31日(金)
URL: http://www.jst.go.jp/it/2018_ibj/

大学発ベンチャー 表彰2018表彰式
2018年8月30日(木)
<http://www.jst.go.jp/it/>

主催 文部科学省

共催 経済産業省 科学技術振興機構

表

[illegible]

裏

<JSTフェア2018ガイドブック>

JSTはSTI for SDGsに積極的に貢献します

2015年9月の国連総会において「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals:SDGs）」の17の目標と169のターゲットは、わが国を含む地球的・人類の課題を包摂して掲げた国際的な目標です。SDGsは、我が国を含む地球的・人類の課題を包摂して掲げた目標です。SDGsで掲げられている課題の達成は、国内的には我が国の成長戦略の軸の1つである第5期科学技術基本計画に掲げる「Society5.0」や「第四次産業革命」の実現にも密接に関連し、また国際的には途上国をはじめとした国際社会への貢献への基本理念でもあります。

国連では、SDGsの達成に向けて科学技術イノベーション（Science, Technology and Innovation: STI）がどのように貢献できるかをテーマとするフォーラムが2016年6月に初めて開催されました。SDGsの達成において、科学技術イノベーションは、私たち人類が直面している持続可能性に関する諸課題の解決や、より良い政策決定に資する科学的根拠を提供することに、強い期待が寄せられています。

SDGsの達成に科学技術イノベーションが貢献（STI for SDGs）していくためには、政府はもとより、大学、研究開発機関、NGOや企業等を結ぶ様々なマルチステークホルダーが、政策や市場経済との三位一体で共通価値の創造（Creating Shared Value）を意識して行動することにより、新たな社会的潮流を醸成していくことが重要です。

JSTでは、シンクタンク機関、研究開発、産学連携、次世代人材育成、科学コミュニケーション等多岐に亘る機軸を活かしつつ、日本におけるSDGsの達成に積極的に貢献していきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



URL: <https://www.jst.go.jp/edgs/index.html>



JST Japan Science and Technology Agency Fair
フェア2018
——科学技術による未来の産業創造展——

ガイドブック

出展者一覧

2018.8.30[THU]-8.31[FRI] 東京ビッグサイト 西3ホール
10:00-17:30 10:00-17:00

主催: JST 国立研究開発法人 科学技術振興機構
後援: 文部科学省

賛助協賛: 新日本製鐵、公益社団法人 経済同友会、一般社団法人産業競争力強化会(COOP)、全国地方創生連絡会、独立行政法人 中小企業振興機構、東京海上信用保証、一般社団法人 日本経済団体連合会、公益社団法人 日本労働会館、日本商工会議所

<https://www.jst.go.jp/tv/jstfair2018/>

<出展者アンケート>

<当日参加申込書>

JSTフェア2018

当日参加申込書

お名前: _____

所属: _____

〒 _____

TEL: _____ FAX: _____

E-mail: _____

当日参加申込書

お名前: _____

所属: _____

〒 _____

TEL: _____ FAX: _____

E-mail: _____

JSTフェア2018 出展者向けアンケート

アンケートにご協力をお願いします。アンケートはインターネットの環境が必要です。アンケートは、お名前を明記せず、匿名で回答していただけます。

1. 貴社の業種は、次のうちどれですか？ (複数選択可)

2. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

3. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

4. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

5. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

6. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

7. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

8. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

9. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

10. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

11. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

12. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

13. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

14. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

15. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

16. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

17. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

18. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

19. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

20. 貴社の事業内容について、以下のうちどれが最も当てはまりますか？ (複数選択可)

＜JSTフェア来場者アンケート＞

[illegible]

表

[illegible]

裏

＜共創シンポジウム来場者アンケート＞

[illegible]

<JSTフェア来場者バッジ>



<JSTフェア関係者バッジ>



<オープンイノベーション共創イノベーションバッジ>



<西3ホールプレゼンテーションタイムテーブルパネル>

JSTフェア セミナースケジュール 8月30日(木)	
10:30~11:45	JST事業セミナー①
10:00~10:30	受付
10:30~11:00	NPOCCが運営する産学科学データベースサービスの紹介 「ナポコ」のサービス内容と活用方法について
11:00~11:45	11:00~ 産学・産官連携推進にも役立つサービスに変わります「JSTの産学サービス」の紹介 産学連携 11:00~ ビジネスのヒントが満載! J-GLOBALへこの秋一歩 産学連携 産学連携推進センター J-GLOBAL 産学サービスのご案内 11:00~ 産学連携推進センター J-GLOBAL 産学サービスのご案内 11:40~ 産学連携推進センター J-GLOBAL 産学サービスのご案内
12:15~14:00	持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた共創 JST 産学連携推進センター(CROS)
11:40~12:15	受付
12:15~12:25	産学連携推進センター(CROS)の紹介
12:25~	12:25~ SDGsとSDGsに関する国内外の最新動向 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:30~	12:30~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:35~	12:35~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:40~	12:40~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:45~	12:45~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:50~	12:50~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:55~	12:55~ 産学連携推進センター(CROS)の紹介 SDGs 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
13:00~13:05	ディスカッション
13:05~14:00	まとめ
14:30~15:30	異分野の融合・協創が拓く新たな科学技術イノベーション JST 産学連携推進センター(CROS)
14:00~14:30	受付
14:30~14:40	産学連携推進センター(CROS)の紹介
14:40~14:50	産学連携推進センター(CROS)の紹介
14:50~15:00	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:00~15:10	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:10~15:20	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:20~15:30	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:30~15:40	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:40~15:50	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:50~16:00	産学連携推進センター(CROS)の紹介
16:00~16:10	産学連携推進センター(CROS)の紹介
16:10~16:20	産学連携推進センター(CROS)の紹介
16:20~16:30	産学連携推進センター(CROS)の紹介

JSTフェア セミナースケジュール 8月31日(金)	
11:00~12:30	基調講演 11:00~12:30 新製品開発に生かす伝統技術 東京理科大学 教授 生田 由美
12:00~14:00	低炭素社会実現に向けたALCAの技術開発紹介 JST産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:30~13:00	受付
13:00~13:15	産学連携推進センター(CROS)の紹介
13:15~13:30	産学連携推進センター(CROS)の紹介
13:30~13:45	産学連携推進センター(CROS)の紹介
13:45~14:00	産学連携推進センター(CROS)の紹介
14:30~15:30	Society 5.0の実現に向けた革新的センサー・デバイス技術 JST産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
14:00~14:30	受付
14:30~14:45	産学連携推進センター(CROS)の紹介
14:45~15:00	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:00~15:15	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:15~15:30	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:30~15:45	産学連携推進センター(CROS)の紹介
15:45~16:00	産学連携推進センター(CROS)の紹介
16:00~16:15	産学連携推進センター(CROS)の紹介
16:15~16:30	産学連携推進センター(CROS)の紹介

<西1ホールタイムテーブルパネル>

JSTフェア セミナースケジュール 8月30日(木)	
10:00~10:45	JST事業セミナー①
9:30~10:00	受付
10:00~10:10	「人材育成プログラム」のご紹介 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
10:10~10:25	「プログラム・マネージャーの育成・活躍推進プログラム」のご紹介 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
10:25~10:45	博士人材の求人にも活用! JREC-IN Portal 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
11:15~12:05	バイオ・ナノ材料分野の基礎研究から 次のイノベーションを考える(ERATO成果紹介) JST産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
10:45~11:15	受付
11:15~11:25	ERATO事業紹介 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
11:25~11:45	「多様な微生物が形成する集菌の制御技術の創出」 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
11:45~12:05	「量子数に制限したサブナノ粒子の合成と触媒反応への応用」 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
12:05~12:25	「分子エキシトンが切り拓く次世代光エレクトロニクス」 産学連携推進センター(CROS) 産学連携推進センター(CROS)
14:30~15:15	大学発ベンチャー創設2018 表彰式

<共創シンポジウムタイムテーブルパネル>

オープンイノベーション共創シンポジウム ~世界で最もイノベーションに適した国へ~	
日時: 2018.8.30(木) 12:30~15:00	主催: 文部科学省 / 共催: 国立研究開発法人科学技術振興機構
入場無料	
タイムテーブル	登壇者(敬称略)
12:30~12:35	開会・開会挨拶: 後藤 浩司 [文部科学省 科学技術・学術政策局 総務課]
12:35~13:05	基調講演: 「オープンとクローズドの科学技術政策」 Open Innovation, Open Science, Open Government 上山 隆大 [内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 議員]
13:05~13:25	基調講演: 西條 正明 [文部科学省 政策企画・地域支援課 課長]
13:25~13:40	休憩
13:40~14:55	パネルディスカッション: 「イノベーションシステムの最適化に向けたアクション」 パネリスト: 大塚 好弘 [山形大学 理事・副学長] [EM-IP, 入試, 社会連携, 知的財産部] 川原 金博 [東京大学 大学総務部理工学系研究科 准教授] 三島 隆彦 [東京工業大学 副学長・名誉教授] 村山 英樹 [株式会社地産地消推進イノベーション・代表取締役社長] 山崎 健一郎 [一般社団法人日本経済団体連合会 副会長] 東京工業大学 技術委員会 委員長 西條 正明 [文部科学省 政策企画・地域支援課 課長] モデレーター: 後藤 浩司 [国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長]
14:55~15:00	閉会挨拶: 後藤 浩司 [国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長]

＜会場案内図パネル＞



＜各種看板＞

オープンイノベーション共創シンポジウム
～世界で最もイノベーションに適した国へ～

主催： 文部科学省

共催:  国立研究開発法人
科学技術振興機構
Japan Science and Technology Agency

＜社名板①＞

28	STI for SDGs大解説！ 経営企画部 持続可能な社会推進室	5	高強度エアロゲルの開発と 高性能断熱材への応用	106	IoT/AI社会を支える省エネCMOS技術： 縦型BC-MOSFET
17	国際部 (国際交流、SATREPS、SICORP、海外事務所、等)	95	微小エネルギーを利用した環境発電技術	101	元素間融合技術を用いた革新的ナノ合金
27	アマゾンの生物多様性を守れ！ ～フィールドミュージアム構築～	90	有機材料による電気二重層エレクトレットを 利用した高動発電素子	102	皮膚呼吸が可能な 皮膚貼り付け型ナノメッシュ電極
26	人と生物多様性と パームオイル産業の共生を目指す！	91	ラットリングとローンベアの活用で 効率を高めた熱電発電材料	104	ダイヤモンド中のNVセンタを用いた 高感度磁気センサー
25	養蚕革命！ 東アフリカで高品質シルクを開発	92	磁性により高機能化させた鉛物による 熱電発電材料	107	金星表面でも使える不揮発性メモリ
24	災害リスクの評価と万全な備えて、 災害対応力を強化せよ！	93	大気下安定なカーボンナノチューブによる ウェアラブル用熱電変換シート	108	電流を流さないスピン波ロジック素子
18	イスラエル 災害時交通の観測・予測・制御 ー非定常ネットワークでの経路選択行動	94	熱電技術の普及促進に向けた 低コスト熱電材料および伸縮型熱電デバイス	80	新型インフルエンザ早期発見のための グラフエンプライオセンサー
19	ヴィシエグラード4カ国 (V4) 先進ナノ機能化物の創製と構造・電気化学特性の 関係解明による次世代半導体デバイスの開発	89	干置からの高圧水素発生	82	組織微小環境中の1細胞構成情報の解析
54	低炭素社会戦略センター(LCS)	86	固体電解質を利用した アンモニア電解合成システム	77	無制限多重染色を可能とする 革新的超解像顕微鏡IFRIS
6	未来社会創造事業	88	バナジウム合金膜を組み込んだ 大流量水素精製デバイス	78	非標準で計測可能な生体内イオンの ダイナミックビジュオロジー
7	未来社会創造事業 探索加速型 「世界一の安全・安心社会」の実現領域	84	メタンを高付加価値化学原料に転換する 触媒技術創出	79	非標準で計測可能な生体内イオンの ダイナミックビジュオロジー
1	空間結像アイリス面型・ 超低消費電力ディスプレイ	85	可視光を使って室温で メタンを活性化させる反応プロセス	81	植物生産性の向上を可能にする 新規制御ケミカルの開発
2	アミン含有ゲルから成る 高効率CO ₂ 分離材・分離膜	109	世界最速カメラの開発と未踏領域の開拓	96	植物の根に共生する菌根菌： ゲノム解読から農業利用へ
3	油田・ガス田における 可燃性ガス回収技術の開発	83	ハロゲン化ペロブスカイト太陽電池の 界面構造と高効率化	99	ぶれない、まぶしくない、自撮りできる 高速ビジョン応用小型顕微鏡カメラ
4	水素と電力の相互高効率変換： 可逆作動固体膜化物セル	100	高輝度・高出力フォトニック結晶レーザ	98	指の触覚をリアルに伝える 小型触覚伝送モジュールと3触覚グローブ

＜社名板②＞

97	発声者の協力的動作を活用した音声生成機能の拡張技術 筑波大学 情報通信センター 教授 戸田 隆雄	125	ヘルメット搭載型骨伝導ヘッドセットシステムにおける高感度バイタルセンサの開発 筑波大学 理工学部 システム創成工学科 電気電子情報コース 教授 本間 昌雄	138	海域の環境収容力に基づく持続的な牡蠣養殖法の構築 熊本県立大学 環境共生学部 研究主任 小森田 繁夫
103	三次元的に動く布～着衣型アシストを目指して～ 筑波大学 大学院工学研究科 情報・通信工学専攻 助教 高野 竜記	127	センチメートル級測位可能な携帯型キネマティックGPS受信機の開発 東北大学 未来科学技術共同研究センター 准教授 宮本 直人	141	熊本県の伝統食「馬肉」に新たな価値を与える飼育方法とその付加価値の証明 熊本県産業振興センター 食品加工技術部 研究主任 佐藤 孝雄
76	最先端ベイズ統計学に基づく地震計測ビッグデータ解析 東北大学 地震研究所 教授 中込 昌	126	有機無機ELの長寿命化に貢献する窒素原子層堆積・ガスバリア 山形大学 大学院工学研究科 電気電子工学専攻 教授 渡辺 文彦	140	晶析プロセスの効率化：固分式を連続式に転換する振動流バツフル反応器 神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 助教 堀江 孝史
75	ベイズ計測の数理基盤の構築 東北大学 大学院情報科学部工学研究科 情報工学専攻 教授 関谷 真人	128	新規作動部を用いた結晶軸の試作開発 水産資源振興局イノベーションセンター機能分子研究科 結晶科学部門 主任研究員 本庄 重雄、中野 敏子、後藤 博子	139	東北・熊本復興支援のとりくみ 科学技術振興機構
165	集団微生物制御を可能とする基盤技術の確立 ETHA(国際共同)微生物制御プロジェクト 筑波大学 生命環境部 教授 野村 隆雄	130	紫レーザー励起蛍光分析による穀物の一粒分析・分別装置の開発 徳島大学 工学部応用化学系 応用化学科(工学) 教授 森上 直人	118	小型・軽量可搬型X線検査装置 フジテクノロジ(株)
164	未開拓の分子エキシトン過程の解明とデバイスへの展開 ETHA(国際共同)有機薄膜デバイスプロジェクト 筑波大学 生命環境部有機エレクトロニクス研究センター センター長 教授 藤澤 孝雄	129	IoTへの展開をめざすマルチモーダル触覚センサの開発 中部大学 工学部 ロボット工学科 サイバネティクス研究室 教授 大日方 玄徳、助教 イシノリョウ	117	樹木精油を利用した環境汚染物質の無害化剤 日本がけり研究所(株)
166	ソフトロボティクスと無線給電のこれから ETHA(国際共同)有機薄膜デバイスプロジェクト 筑波大学 大学院情報工学系研究科 助教 川原 圭雄	134	おんぶ動作特性に基づく快適な移動機器の開発 石川電気設備 機械生産部デザイン開発課 研究技師 松川 優子	119	熱電シナジー排ガス発電システム J(株)アツタック
59	歩行補助車を活用した歩いて暮らしたくなるまちづくり 岡山大学 大学院国際学際研究科 地域創造学講座 准教授 中村 真澄子	133	超親水・超撥水性材料の定量的濡れ性評価 徳島大学 工学部 応用化学系 有機化学科(工学) 教授 バイオデバイス研究ユニット 研究員 田中 隆子	124	人工脂質膜を用いた品質管理用高耐久性高速味覚センサ J(株)インテリジェントセンサーテクノロジーズ
60	高齢者の営巣を支える「らくらく農法」の開発 筑波大学 大学院国際学際研究科 教授 佐藤 伸哉	135	インフラサウンド津波センサーの高感度および防災システムへの応用展開に関する研究 高松大学 総合研究部 インフラサウンド研究室 教授 山本 真行	121	高生産性精密研磨パッド 東人フロンティア(株)
57	日本で広がるリビングラボ 東北大学 高齢化社会科学研究機構	131	コルヌ構造を適用した遊星歯車減速機の開発 広島県立総合技術研究所 機械工業部センター 加工技術研究部 主任研究員 荒木 秀和	123	人工核糖BNAの活用による遺伝伝子変異の高感度検出技術 株DNA
58	多様なリビングラボ事例 筑波大学 あらゆる思いやまどうろ(一社) 高齢社会研究センター	144	ジャンボタニシをやっつける!! 工学的手法による防除法の開発 京浜東北工業専門学校 電気電子工学科 准教授 松本 真人	122	植物由来機能性素材の製造技術 日江産業(株)
56	外部から見えにくい空間での危害を予防し、安全な暮らしをつくる 筑波大学 大学院工学研究科 教授 山本 真行	143	キクラゲ栽培による発酵バガス・黒糖焼酎粕の島内循環システム 鹿児島県産業振興局 都市環境デザイン工学科 教授 山内 正仁	33	バイオ3Dプリンティング技術による新産業創出への挑戦 株サイフォーエス
116	研究成果最速展開支援プログラム(A-STEP) 筑波大学 生命環境部 教授 佐藤 伸哉	132	コンピュータホログラフィによる驚きの3D映像 筑波大学 システム理工学部 電気電子情報工学科 教授 松本 秀治	35	糖鎖科学のスタンダードを提供いたします! 東北大学(株)
110	調理できる粉末魚油でDHAをもっと身近に 筑波大学(株)・筑波大学	136	全雄トラフグ生産・成熟制御技術開発による早期白子生産 中部大学 農学部 応用生命科学部生物化学研究室 教授 藤原 隆之	34	蛍光ガイド手術のための蛍光ナビゲーションドック 丸屋(株)
142	研究成果最速展開支援プログラム(A-STEP)機能検証フェーズ 筑波大学 生命環境部 教授 佐藤 伸哉	137	多点センサー観測に基づくリアルタイム広域斜面監視型の防災情報システム開発 筑波大学 生命環境部 応用化学系 応用化学科(工学) 教授 山内 正仁	29	実位分布計測装置 4D Sensor for Material Test 4Dセンサ(株)

<社名板③>

31	家族の医療情報は スマホアプリMeDeCaでデジタル管理 メディカルデータカード(株)	45	特異的スプライシングバリエーションを 標的とした新規治療法の開発 ベリオセリア(株) 代表取締役 山本 義典	173	埋込型・装着型 デバイス共創コンソーシアム 徳島大学 先端融合創成院 バイオデバイス研究センター 院長(教授) 徳島 賢人
32	採血不要の血中脂質計測器 メディカルフィニクス(株)	46	次世代型核酸医薬の創製： マイクロRNAの化学修飾と創薬への展開 (株) eRNA Biotech (イーエヌエイ バイオテック) 代表取締役 立田 孝夫	171	量子アプリ共創コンソーシアム (QISS) 大阪大学 情報科学研究センター センター長 中野 貴志
30	名古屋大学で長年培った 「電子ビーム技術」を産業利用へ (株)Photo electron Soul	43	グローバルベンチャーの創出 —研究成果の実践を志す研究者と共に (株)FGRベンチャー・ビジネスパートナーズ 取締役創設社長 山口 孝久	174	IT・輸送システム 産学共創コンソーシアム 東北大学 国際連携エレクトロニクス研究開発センター センター長 清藤 哲朗
66	デジタル中性子カメラ& 中性子3Dスキャナー 東北大学 工学部工学系研究科 原子力工学専攻 バイオエンジニアリング専攻 教授 高橋 浩二	49	狭い場所でもがん治療できる医療器 (株)DRファイバー・ラボローリー 代表取締役 岡 達	169	「ゲノム編集」産学共創コンソーシアム 広島大学 工学部工学系研究科 教授 山口 孝
67	産業用小型中性子照射システムの開発 東京工業大学 科学技術振興機構 先端科学技術研究科 教授 神崎 博昭	50	印刷型バイタルセンサシート (株)フューチャー・インフュ 取締役創設社長 鈴木 大介	168	有機材料の極限機能創出・ 社会システム化共創コンソーシアム 山口大学 有機材料システム研究推進本部 理事・工学部 太田 好弘
68	フォトニクスポリマーを用いた 次世代光インターコネクトシステム 宇都宮大学 工学部工学系研究科 先端光工学専攻 教授 杉原 義浩	39	超小型磁気薄膜電力センサー 「SIRCデバイス」の多用途展開 (株)SIRC (サーズ) 代表取締役社長 平塚 大	175	人間機械協調技術コンソーシアム (HMH3コンソーシアム) 名古屋大学 未来社会創造機構 教授 田辺 一樹
71	街中のガラスをサイネージメディアに 透明スクリーンガラス セントラル硝子(株)	48	ボールSAWセンサを用いた ガス計測ソリューション ボールウェア(株) 代表取締役社長 森崎 義典	61	イノベーションハブ構築支援事業 (株)イノベーター・ラボ
72	あらゆる透明体をスクリーンに！ 透明スクリーンフィルム シグマ硝子(株)	41	技術を震える配線材料 “Cu” (株)マテリアル・コンセプト 代表取締役社長 小池 実徳	62	情報統合型物質・材料開発 イニシアティブ (MI2I) 情報・材料研究機構 (MI2I) 情報統合型物質・材料研究拠点 拠点長 伊藤 隆
73	量子ナノフォトニック 情報通信技術の開発 (株)日立産機	42	わたしたちは、素材・化学分野に特化した、 新しいベンチャーキャピタルです エニバーサル マテリアルズ インキュベーター(株) 取締役パートナー 水島 健介	63	太陽系フロンティア開拓による人類の生存圏・ 活動領域拡大に向けたオープンイノベーションハブ 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙開発イノベーションハブ (J-IP) 所長 佐々木 孝
69	生体活動情報を磁場で捉える 高感度磁気センシング装置 東北大学 工学部工学系研究科 教授 斎藤 泰夫	147	産学連携ジャーナル (株)産学連携ジャーナル	64	「攻め」の防災に向けた気象災害の 能動的軽減を実現するイノベーションハブ 国立気象庁気象研究所 (NIES) 気象災害軽減イノベーションセンター センター長 奥村 誠
70	有機半導体フレキシブルディスプレイ プリンタブルエレクトロニクス バイオピクス(株)	148	新技術説明会 (株)新技術説明会	65	高精度の予測に基づく予防医療の実現に向けた 疾患ビッグデータ主導型イノベーションハブ 理化学研究所 (RIKEN) 数知イノベーション推進プログラム プロジェクトディレクター 小坂 直也
38	大学発新産業創出プログラム (START) 社会還元加速プログラム (SCORE) (株)大学発新産業創出プログラム (START) 社会還元加速プログラム (SCORE) 代表取締役 山本 義典	145	目利き人材育成プログラム (株)目利き人材育成プログラム	8	流れの「かたち」を言葉にする手法の開発 京都大学 工学部工学系研究科 教授 斎藤 泰夫 教授 山本 義二
44	竹マイクロファイバー/ プラスチック・コンボジット 自然素材ファイバラス 代表社員 三津 康雄	146	産学官の道しるべ (株)産学官の道しるべ	9	細胞を使わない次世代ゲノム合成法 京都大学 理学部 生命科学科 教授 立田 孝夫
40	カーボン由来の新素材 「キゼンナノファイバー」のヘルスケア効果 (株)キゼンナノファイバー 代表取締役 伊藤 孝介	170	産学共創プラットフォーム 共同研究推進プログラム (OPERA) (株)産学共創プラットフォーム 共同研究推進プログラム (OPERA) 代表取締役 山本 義典	10	白金表面上部分無電解金メッキによる 3nmナノギャップ電極 東京工業大学 科学技術振興機構 先端科学技術研究科 教授 高橋 浩二
47	難治性炎症性腸疾患に対する新薬開発 UCDAMファーマ(株) 代表取締役 新堀 利信	172	社会活動継続技術共創コンソーシアム (SOFTech) 東京工業大学 科学技術振興機構 未来産業技術研究科 教授 山口 孝	11	大ストローク・低消費電力・狭ピッチ 「触覚ディスプレイ」 東北大学 工学部工学系研究科 教授 佐々木 孝 教授 田辺 一樹

＜社名板④＞

13	次世代タンパク食： 昆虫利用及び細胞培養による食料生産へ 理化学研究所 インテグリティチャー社	152	航空エンジン用金属粉末射出成形技術 (MIM) の開発 株式会社 航空・宇宙・防衛事業領域 技術開発センター エンジン技術部 部長 黒本 博史
12	質問を創る学び場 ハテナソンの研究開発と実装試験 京都産業大学 総合生命科学部 佐藤 真一	153	ダブル電子ビーム蒸着法による 耐環境性コーティング形成 フラインセラムミックスセンター 材料技術研究所 主幹研究員 北岡 倫
149	3次元燃焼解析ソフトウェア 「HINOCA」 SIP革新的燃焼技術 (JAXA, 早稲田大学, 海上・港湾・航空技術研究所, 大阪大学, 広島大学, 東北大学, 大分大学, 北海道大学)	154	高速基材製造プロセス技術の開発 東京工科大学 片柳研究所 所長 香川 豊
150	ポリマーモノリスを用いた潤滑システム 京都大学 化学研究所 教授 辻井 敬直	155	マテリアルズインテグレーション システムの開発 東京大学 工学系研究科 副学長・教授 小関 敬彦
160	津波遡上即時予測システム 防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター	157	レーザーを用いたトンネルの 状態計測の近況 理化学研究所 光子工学研究センター センター長 藤川 亮典
161	豪雨・電巻予測情報の提供： 最新気象レーダーMP-PAWRの活用 情報通信研究機構	158	コンクリート内部環境センサー 物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 グループリーダー 西村 俊彦
162	リアルタイムな被害状況把握と災害情報の 「集約」「共有・統合」「提供」：SIP4D 防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター	159	SIPインフラ開発技術の社会実装に向けた支援 慶應義塾大学 大学院経営管理研究科 教授 大林 厚臣
163	通信手段の迅速な回復技術： NerveNetとICTユニット 情報通信研究機構	51	バイオサイエンスデータベースセンター (NBDC)
151	【航空機用CFRP】 脱オートクレーブ材料・成形技術開発 東レ(株) 複合材料研究所 所長 吉岡 健一	14	日本科学未来館
36・37	出資型新事業創出支援プログラム(SUCCESS)		
52	科学技術情報連携・流通促進事業 研究・開発・経営戦略立案にも役立つ！ JSTの情報サービス		
15・16	理数学習推進部 (ジュニアドクター育成塾、グローバルサイエンスキャンパス、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 支援、国際科学技術コンテスト支援)		

<社名板⑤>

23	e-ASIA共同研究プログラム： ドローンによる災害情報の収集と活用 防災科学技術研究所 主幹研究員 井上 公	111	エレクトロスプレー繊維加工技術 アピックヤマダ(株)/(株) ヤマダ、豊栄織物(株)、産業技術総合研究所、愛媛県産業技術研究所
87	エネルギーキャリアとしての アンモニア合成・分解プロセスの開発 大分大学 理工学部 共創理工学科 准教授 永岡 勝俊	112	パルス光伝導法による 半導体Siの超高感度不純物分析手法の開発 グローバルウェーブ・ジャパン(株)/熊本大学
74	光で創造する意思決定の世界： 人工知能の基盤を担う次世代フォトニクス 情報通信研究機構 総括研究員 成瀬 誠	113	高硬度・防汚性、 ナノインプリント用エポキシ樹脂組成物 オーテックス(株)/東京理科大学
105	ダイヤモンド電極 ～医療用・環境計測用高感度センサへの応用～ 慶應義塾大学 理工学部 化学科 教授 奈良 泰明	114	超高速光リンクのための 超高速面発光レーザの開発 富士ゼロックス(株)/東京工業大学
167	戦略的創造研究推進事業 総括実施型研究(ERATO)	115	木造住宅の制震構造標準化を可能にした 「制震筋かい金物」 (株)DIT/ユニオンゴム工業(株)、BXカネシン(株)、第一工業大学、横浜国立大学
55	戦略的創造研究推進事業 社会技術研究開発(RISTEX)	120	研究成果最速展開支援プログラム(A-STEP)企業主導フェーズ/ 産学共同実用化開発事業(NexTEP)
53	研究人材キャリア情報活用支援事業 博士人材の求人に活用！ JREC-IN Portal	156	水素エネルギーキャリアとしての アンモニアへの期待と挑戦 SIPエネルギーキャリア(アンモニア直接燃焼チーム、アンモニア燃料電池チーム、CO ₂ フリー水素利用アンモニア製造・貯蔵・輸送関連技術の開発チーム)
20・21・22	EIG CONCERT-Japan(日-欧州)プログラム：食料及びバイオマスの生産技術 新潟大学、東京農工大学、名古屋大学、理化学研究所		

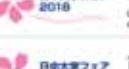
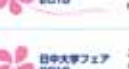
<社名板⑥> COI

217 ビジョン1 「食と健康の達人」拠点 プロジェクトリーダー：吉野 正則(日立製作所) 研究リーダー：玉置 鏡子(北海道大学) 中核機関：北海道大学	214 ビジョン2 精神的価値が成長する感性イノベーション拠点 プロジェクトリーダー：藤沢 隆秀(マツダ) 研究リーダー：山崎 成人(広島大学) 中核機関：広島大学
221 ビジョン1 真の社会イノベーションを実現する革新的「健やか力」創造拠点 プロジェクトリーダー：工藤 寿郎(マルマンコンピュータサービス) 研究リーダー：中野 量之(弘前大学) 中核機関：弘前大学	205 ビジョン3 フロンティア有機システムイノベーション拠点 プロジェクトリーダー：三宅 聡(大日本印刷) 研究リーダー：大場 好弘(山形大学) 中核機関：山形大学
215 ビジョン1 さりげないセンシングと日常人間ドックで実現する理想自己と家族の絆が導くモチベーション向上社会創生拠点 プロジェクトリーダー：和賀 量(NECソリューションイノベータ) 研究リーダー：末永 智一(東北大学) 中核機関：東北大学	206 ビジョン1 コヒーレントフォトン技術によるイノベーション拠点 プロジェクトリーダー：湯本 潤司(東京大学) 研究リーダー：常行 真司(東京大学) 中核機関：東京大学
222 ビジョン1 自分で守る健康社会拠点 プロジェクトリーダー：池浦 富久(東京大学) 研究リーダー：藤 謙一(東京大学) 中核機関：東京大学	209 ビジョン3 感性とデジタル製造を直結し、生活者の創造性を拡張するファブ地球社会創造拠点 プロジェクトリーダー：松原 健二(ロンクフェロー) 研究リーダー：村井 純(慶應義塾大学) 中核機関：慶應義塾大学
218 ビジョン1 スマートライフケア社会への変革を先導するものづくりオープンイノベーション拠点 プロジェクトリーダー：木村 真道(川崎市産業振興財団) 研究リーダー：片岡 一樹(川崎市産業振興財団) 中核機関：川崎市産業振興財団	207 ビジョン3 革新材料による次世代インフラシステムの構築拠点 プロジェクトリーダー：池端 正一(大和ハウス工業) 研究リーダー：鶴澤 潔(金沢工業大学) 中核機関：金沢工業大学
220 ビジョン1 運動の生活カルチャー化により活力ある未来をつくるアクティブ・フォー・オール拠点 プロジェクトリーダー：田中 孝典(オムロンヘルスケア) 研究リーダー：伊藤 忠夫(立命館大学) 中核機関：立命館大学	208 ビジョン3 世界の豊かな生活環境と地球規模の持続可能性に貢献するアクア・イノベーション拠点 プロジェクトリーダー：都築 浩一(日立製作所) 研究リーダー：遠藤 守徳(信州大学) 中核機関：信州大学
219 ビジョン1 活力ある生涯のためのLast 5Xイノベーション拠点 プロジェクトリーダー：野村 剛(パナソニック) 研究リーダー：小寺 秀俊(京都大学) 中核機関：京都大学	211 ビジョン1 人がつながる「移動」イノベーション拠点 プロジェクトリーダー：野崎 藍(トヨタ自動車) 研究リーダー：森川 高行(名古屋大学) 中核機関：名古屋大学
216 ビジョン2 「サイレントボイスとの共感」地球インクルーシブセンシング研究拠点 プロジェクトリーダー：廣井 聡幸(ソニー) 研究リーダー：若林 隆(東京工業大学) 中核機関：東京工業大学	212 ビジョン3 持続的共進化地域創成拠点 プロジェクトリーダー：石原 晋也(西日本電信電話) 研究リーダー：若山 正人(九州大学) 中核機関：九州大学
213 ビジョン2 人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点 プロジェクトリーダー：上野山 雄(パナソニック) 研究リーダー：松本 和彦(大阪大学) 中核機関：大阪大学	

<社名板⑦> COI 若手連携研究ファンド

拠点発事業化の加速を 目指したCOIアクセラレータの 手法開発およびその実証研究	肌の保湿とハリを取り戻す 美容液とその効果を 実感できるセンサシステム	皮膚組織液による 皮膚がん診断・薬剤投与パッチ の開発	FDG PET報告書の ビックデータ解析による 画像自動診断システムの開発を めざした研究	ほくして眠る・良質な睡眠獲得 のための刺激技術の実証 ～中医学的刺灸法の導入に 関する検討
健康寿命の延伸を目指した マイオカインの機能解明と そのサブメント化の実証に 向けた基礎研究	装着感と拘束感のないセンサ (Stress Free Sensing)で 取得する生体ビックデータによる 新しい医療デバイス開発への挑戦	マイクロ波給電による ウェアラブルマルチセンシング システムの開発	膀胱がんのような 多発性・びまん性の表層がんを 超低侵襲的に治療する極微小 光学的システムの創製	※背景色：Pantone2935
大型3Dプリンティングによる CFRPペレットを用いた革新的 建築壁モジュールの設計方法に 関する研究	腸内フローラ判定トイレと 改善サブリの開発	スポーツ×テクノロジーによる アスリートの事故防止と 全力発揮支援	ORNI-PCR法を利用した 細菌叢の高解像度・低コスト 解析法の開発	
からだにやさしいライフスタイル 選択サポートの創造 ～生物時計同調と快適睡眠で 高める女子学生のQOL～	社会実装を目標とした バイタルデータアート化システム の実現	認知症の予防と 早期発見のためのビックデータ 多層解析	変形性関節症の進行予防に 向けた早期変形性関節症の 包括的身体機能評価と 予後予測に関する基礎研究	
低出生体重児の客観的理解を 目指した生理学的指標の解明 と社会性獲得過程の評価方法 確立に向けた基礎研究	低侵襲脳卒中治療を目指した、 患者と医療者に優しいバイオ エンジニアリング技術に関する 基礎研究	地域・層域でのロコモティブ シンドロームの早期発見、 予防・改善を目指した生活機能 低下予防システムの構築	ウェアラブルテラヘルツセンサ の開発	

<社名板⑧> CRCC

 中国総合研究・さくらサイエンスセンター China Research and Communication Center	176	 吉林大学 Jilin University	186	 中国科学院大学 University of Chinese Academy of Sciences	196
 上海交通大学国家大学サイエンスパーク Shanghai Jiao Tong University Science Park	177	 南京大学 Nanjing University	187	 清华大学 Tsinghua University	197
 上海交通大学国家大学サイエンスパーク Shanghai Jiao Tong University Science Park	178	 江西省科学院エネルギー研究所 Institute of Energy Research, Jiangxi Academy of Sciences	188	 清华大学 Tsinghua University	198
 山東大学 Shandong University	179	 北京大学 Peking University	189	 中国科学技術大学 University of Science and Technology of China	199
 アモイ大学 Xiamen University	180	 西安交通大学 Xi'an Jiaotong University	190	 中国科学技術大学 University of Science and Technology of China	200
 ハルビン工程大学 Harbin Engineering University	181	 西安交通大学 Xi'an Jiaotong University	191	 西北工業大学 Northwestern Polytechnical University	201
 内モンゴル自治区対外科技交流センター Inner Mongolia International Science and Technology Exchange Center	182	 南京工程学院 Nanjing Institute of Technology	192	 浙江大学 Zhejiang University	202
 内モンゴル科学技術協力・イノベーション発展研究院 Inner Mongolia Institute of Science and Technology Cooperation and Innovation Development	183	 大連理工大学 Dalian University of Technology	193	 浙江大学 Zhejiang University	203
 西北大学 Northwest University	184	 北京交通大学 Beijing Jiaotong University	194	 浙江大学 Zhejiang University	204
 貴州大学 Guizhou University	185	 北京理工大学 Beijing Institute of Technology	195		

<社名板⑨> 国立研究開発法人等

A  宇宙航空研究開発機構	G  国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 Japan Agency for Medical Research and Development
B  国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構	H  国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構
C  国立研究開発法人 情報通信研究機構	I  一般社団法人 つくばグローバルイノベーション推進機構 Tsukuba Global Innovation Promotion Agency
D  国立研究開発法人 海洋研究開発機構	J  国立研究開発法人 防災科学技術研究所 National Research Institute for Earth Science and Disaster Resilience
E  国立研究開発法人 産業技術総合研究所	K  農研機構 NARO 農業・食品産業技術総合研究機構
F  理化学研究所	

<開会式>



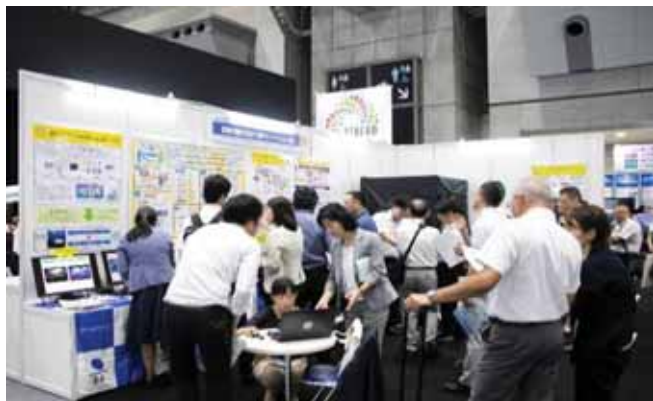
<総合受付>



<屋内外看板>



<会場全体>



<会場鳥瞰>



<西3ホールセミナー会場、基調講演>

